

# 第89回がん対策推進協議会 議事次第

日 時： 令和5年7月10日(月)16:00～18:00

WEB開催

## 議 事 次 第

### 1 開 会

### 2 議 題

- (1) 第4期がん対策推進基本計画について
  - ・ ロジックモデル・指標について
- (2) 個別事項について
  - ・ 患者・市民参画について
- (3) その他

### 【資 料】

- |       |   |
|-------|---|
| 資料1   | 第4期がん対策推進基本計画のスケジュール  |
| 資料2   | 第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル暫定版<br>(国立がん研究センターがん対策研究所・「がん対策推進基本計画におけるロジックモデルの構築・改善に関する研究」班提供資料) |
| 資料3   | 第4期がん対策推進基本計画指標一覧暫定版<br>(国立がん研究センターがん対策研究所・「がん対策推進基本計画におけるロジックモデルの構築・改善に関する研究」班提供資料)    |
| 資料4   | 井上参考人提出資料   |
| 資料5   | 鈴木参考人提出資料   |
| 参考資料1 | がん対策推進協議会委員名簿   |
| 参考資料2 | がん対策基本法   |
| 参考資料3 | がん対策推進基本計画中間評価報告書(令和4年6月)   |
| 参考資料4 | 第4期がん対策推進基本計画(令和5年3月閣議決定)   |
| 参考資料5 | 「経済財政運営と改革の基本方針 2023」より抜粋   |
| 参考資料6 | ロジックモデル・指標の修正箇所一覧<br>(国立がん研究センターがん対策研究所・「がん対策推進基本計画におけるロジックモデルの構築・改善に関する研究」班提供資料)       |
| 参考資料7 | 令和4年国民生活基礎調査におけるがん検診受診率   |

# がん対策推進協議会委員名簿

第 89 回がん対策推進協議会	参考資料
令和 5 年 7 月 1 0 日	1

氏名	所属・役職
あくつ ゆき 阿久津 友紀	北海道テレビ放送株式会社東京編成業務部長 SODANE 編集長
いしおか ちかし 石岡 千加史	東北大学大学院医学系研究科臨床腫瘍学分野教授 公益社団法人日本臨床腫瘍学会理事長
うの たかし 宇野 隆	千葉大学大学院医学研究院画像診断・放射線腫瘍学教授 公益社団法人日本放射線腫瘍学会理事長
おおい けんいち 大井 賢一	認定特定非営利活動法人がんサポートコミュニティー事務局長
おおが しょういち 大賀 正一	九州大学大学院医学研究院成長発達医学分野教授 一般社団法人日本小児・血液がん学会理事長
おはら まちこ 小原 真知子	学校法人日本社会事業大学社会福祉学部教授 公益社団法人日本医療ソーシャルワーカー協会副会長
きざわ よしゆき 木澤 義之	筑波大学医学医療系教授（緩和医療学） 特定非営利活動法人日本緩和医療学会理事長
くろせ いわお 黒瀬 巖	公益社団法人日本医師会常任理事
さいとう ともこ 齋藤 朋子	株式会社松下産業ヒューマンリソースセンター長
さや ひでゆき 佐谷 秀行	一般社団法人日本癌学会理事長 藤田医科大学がん医療研究センター特命教授兼センター長
たにくち えいさく 谷口 栄作	島根県健康福祉部医療統括監
つるおか ゆうこ 鶴岡 優子	つるかめ診療所所長 一般社団法人日本在宅医療連合学会理事
◎ とき ゆういちろう 土岐 祐一郎	大阪大学大学院医学系研究科外科学講座消化器外科学教授 一般社団法人日本癌治療学会理事長
○ なかがま ひとし 中釜 斉	国立研究開発法人国立がん研究センター理事長
ひぐち まいこ 樋口 麻衣子	富山 AYA 世代がん患者会 Colors 代表
ひさむら かずほ 久村 和穂	学校法人金沢医科大学医学部公衆衛生学非常勤講師 石川県がん安心生活サポートハウス ソーシャルワーカー 一般社団法人日本サイコオンコロジー学会代議員
まえだ るり 前田 留里	特定非営利活動法人京都ワーキング・サバイバー理事長 一般社団法人全国がん患者団体連合会 理事
まつだ かずお 松田 一夫	公益財団法人福井県健康管理協会副理事長・がん検診事業部長
もりうち みねこ 森内 みね子	公益社団法人日本看護協会常任理事
やじま ゆういちろう 谷島 雄一郎	ダカラコソクリエイト 発起人・世話人 / カラクリ Lab. 代表

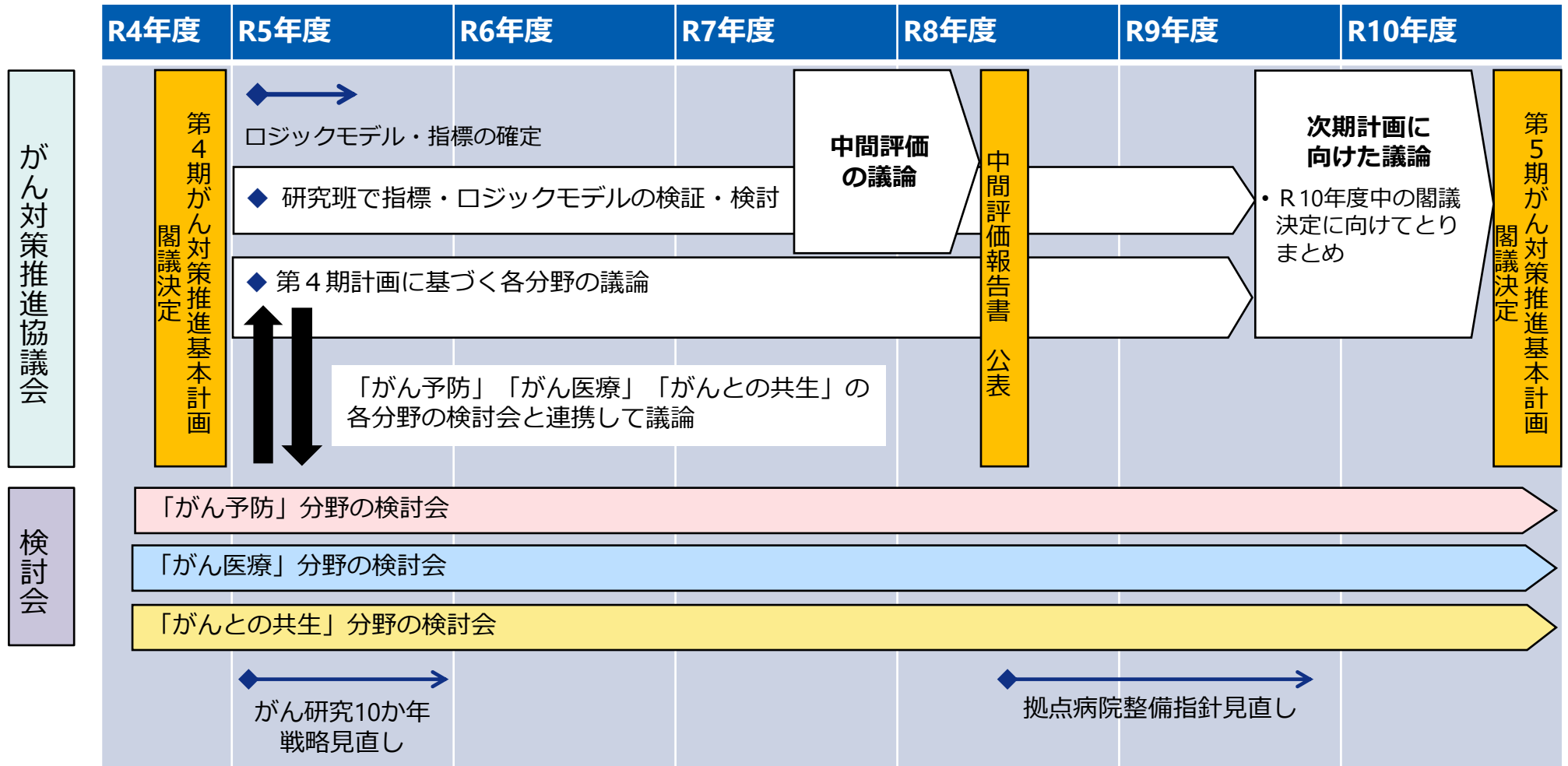
◎・・・会長 ○・・・会長代理 (50 音順、敬称略)

# 第4期がん対策推進基本計画のスケジュール（案）

第89回がん対策推進協議会

資料 1

令和5年7月10日



- 第4期計画において検討が必要とされた個別施策（例）
- がん登録推進法等の規定の整備を含めたがん登録に関する施策の見直し
  - がん研究10か年戦略の見直し
  - がん診療連携拠点病院等の整備指針の見直し

## がん対策推進協議会

### 「がん予防」分野

- がん検診のあり方に関する検討会

### 「がんとの共生」分野

- がんとの共生のあり方に関する検討会
  - がんの緩和ケアに係る部会

### 「基盤」分野

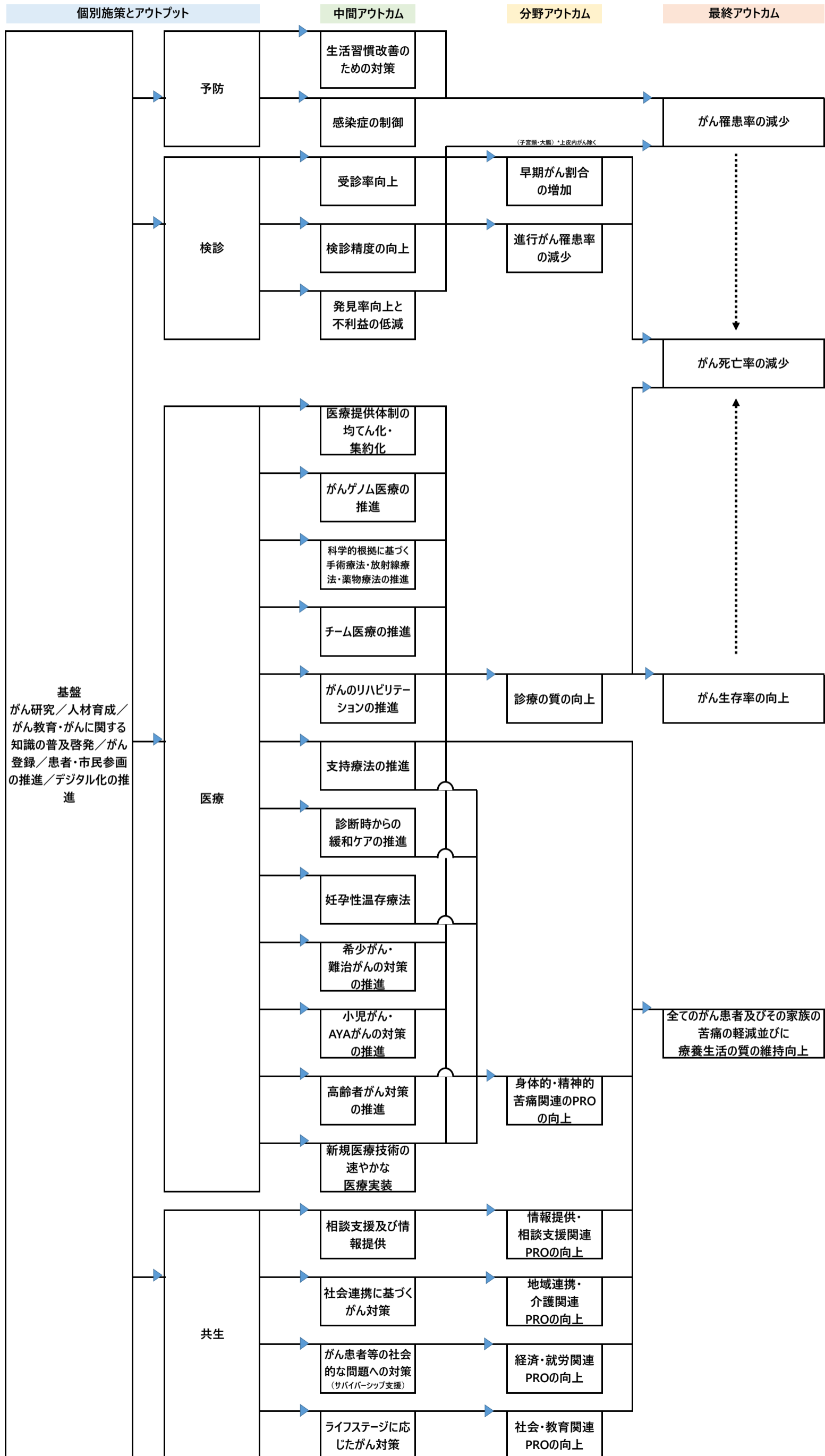
- 今後のがん研究のあり方に関する有識者会議
- 全ゲノム解析等の推進に関する専門委員会
- 厚生科学審議会 がん登録部会
  - 全国がん登録情報の利用と提供に関する審査委員会

### 「がん医療」分野

- がん診療提供体制のあり方に関する検討会
  - がん診療連携拠点病院等の指定要件に関するワーキンググループ
  - 小児がん拠点病院等の指定要件に関するワーキンググループ
  - がんゲノム医療中核拠点病院等の指定要件に関するワーキンググループ
- がん診療連携拠点病院等の指定に関する検討会
- 小児がん拠点病院等の指定に関する検討会
- がんゲノム医療中核拠点病院等の指定に関する検討会
- 小児・AYA世代のがん患者等に対する妊孕性温存療法に関する検討会

「第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル 暫定版」：基本ロジックモデル

第89回がん対策推進協議会	資料 2
令和5年7月10日	



「第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル 暫定版」：がんの1次予防

生活習慣について

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
	【国及び地方公共団体】生活習慣について、「次期国民健康づくり運動プラン」に沿った取組を引き続き推進	指標設定無し（厚生労働省審議会 地域保健健康増進栄養部会 次期プラン推進専門委員会（仮称）での取組評価を注視）	-	-
111101	【拠点病院等】地域へのがんの予防に関する普及啓発を実施するとともに、必要に応じてがん相談支援センターが窓口となり、病院全体でがんの予防に関する情報を提供できる体制を整備	拠点病院等*で実施した、地域を対象とした、がんに関するセミナー等の開催回数（総数）	-	現況報告書

\*. 地域がん診療連携拠点病院、都道府県がん診療連携拠点病院、特定領域がん診療連携拠点病院、地域がん診療病院（各類型の特例型を含む）。以後、同。

参考：第51回厚生科学審議会地域保健健康増進栄養部会資料1より

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
111201	栄養・食生活①適正体重を維持している者の増加（肥満、若年女性のやせ、低栄養傾向の高齢者の減少）	BMI18.5以上25未満（65歳以上はBMI20を超え25未満）の者の割合	1018	国民健康・栄養調査
111202	栄養・食生活②食塩摂取量の減少	食塩摂取量の平均値	1019	国民健康・栄養調査
111203	栄養・食生活③野菜摂取量の増加	野菜摂取量の平均値	1020	国民健康・栄養調査
111204	栄養・食生活④果物摂取量の改善	果物摂取量の平均値	1021	国民健康・栄養調査
111205	身体活動・運動①日常生活における歩数の増加	1日の歩数の平均値	-	国民健康・栄養調査
111206	身体活動・運動②運動習慣者の増加	運動習慣者の割合	1017	国民健康・栄養調査
111207	飲酒①生活習慣病（NCDs）のリスクを高める量を飲酒している者の減少	1日当たりの純アルコール摂取量が男性40g以上、女性20g以上の者の割合	1016	国民健康・栄養調査
111208	飲酒②20歳未満の者の飲酒をなくす	中学生・高校生の飲酒者の割合	-	厚生労働科学研究
111209	喫煙①喫煙率の減少（喫煙をやめたい者がやめる）	20歳以上の者の喫煙率	1011	国民健康・栄養調査
111210	喫煙②望まない受動喫煙の機会を有する者の減少	望まない受動喫煙（家庭・職場・飲食店）の機会を有する者の割合	1015	国民健康・栄養調査
111211	喫煙③20歳未満の者の喫煙をなくす	中学生・高校生の喫煙者の割合	1012	厚生労働科学研究
111212	喫煙④妊娠中の喫煙をなくす	妊婦の喫煙率	1013	厚生労働省調べ

#	分野別アウトカム	指標	3期	データソース
100001	がん種別罹患率減少（胃・大腸・肺・女性乳房・喫煙関連がん）	がん種別年齢調整罹患率（胃・大腸・肺・女性乳房・喫煙関連がん）	1004	全国がん登録

#	最終アウトカム	指標	3期	データソース
000004	がんの年齢調整罹患率減少	がんの年齢調整罹患率	1003	全国がん登録
000001	がんの年齢調整罹患率減少	がんの年齢調整死亡率（75歳未満、全年齢）	1001	人口動態統計

感染症対策について（HPV）

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
112101	令和4年4月に再開したHPVワクチンの個別の接種勧奨の実施を踏まえ、HPVワクチンの接種状況と子宮頸がんの年齢調整罹患率の国内外の推移を把握し、必要に応じて子宮頸がん検診の指針を見直す等、科学的根拠に基づく子宮頸がん対策を推進	HPVワクチンの実施率	-	地域保健・健康増進事業報告
	令和5年4月から9価HPVワクチンの定期接種を開始し、定期接種及びキャッチアップ接種の対象者に対する、適切な情報提供に基づく正しい理解の促進に取り組む			

#	分野別アウトカム	指標	3期	データソース
100002	がん種別罹患率減少（肝・ATL・子宮頸部）	がん種別年齢調整罹患率（肝・ATL・子宮頸部）	1004	全国がん登録

【第88回がん対策推進協議会の資料からの変更箇所】

■：形式修正以外、■：形式修正

<凡例>  
 ・#：指標番号  
 ・3期：第3期中間評価指標で採用されていた指標は当時の番号。新規の場合、「-」。  
 ・データソース：用いる調査等。既存のデータベースでは情報が取得できない場合、「検討中」と記載。具体的には、既存調査の見直しや厚生労働省等での対応を検討している。想定される調査について（）内に記載。

「第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル 暫定版」：がんの1次予防

感染症対策について (肝炎)

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
112102	肝炎ウイルス検査体制の充実やウイルス陽性者の受診勧奨、普及啓発を引き続き推進	肝炎患専門医療機関数	-	地方自治体における肝炎対策実施状況調査
112103		肝炎医療コーディネーターの養成者数	-	地方自治体における肝炎対策実施状況調査
112104	B型肝炎については、予防接種法に基づく定期接種及びウイルス排除を可能とする治療薬・治療法の開発に向けた研究を引き続き推進	B型肝炎定期予防接種実施率	参3	地域保健・健康増進事業報告

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
112201	B型・C型肝炎ウイルス検査受検率の増加	B型・C型肝炎ウイルス検査受検率	-	厚生労働科学研究
112202	B型・C型肝炎ウイルス陽性者数の減少	B型・C型肝炎ウイルス陽性者数	-	「地域保健・健康増進事業報告(健康増進編)」及び「特定感染症検査等事業実績報告」

感染症対策について (HTLV-1)

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
112105	(HTLV-1に関する)患者及びその家族等の目線に立ったわかりやすい情報提供の推進	HTLV-1関連のホームページの閲覧数(厚労省や厚生労働科学研究班作成のホームページのPV数)	-	厚生労働省調べ
112106	HTLV-1キャリアやATL・HAM患者に対する相談体制の構築	HTLV-1関連の窓口数	-	結核感染症課調査
112107	HTLV-1の保健所の検査体制の整備	HTLV-1の保健所の検査数	-	結核感染症課調査
112108	妊婦に対するHTLV-1スクリーニング検査の継続(実施率100%の維持)	妊婦健康診査におけるHTLV-1抗体検査の公費負担実施率	-	母子保健課調査

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
112203	HTLV-1 感染率の減少	ヒトT細胞白血病ウイルス1型感染率	参4	厚生労働科学研究

その他

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
-	引き続き、健康で無症状な集団に対する、ピロリ菌の除菌の胃がん発症予防における有効性等について、国内外の知見を速やかに収集し、科学的根拠に基づき、除菌の必要性の有無及びその対象者について検討するとともに、運用上の課題について整理する	検討の段階のため、指標設定無し(着実に検討を推進すること)	-	-

「第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル 暫定版」：がんの2次予防（がん検診）

受診率対策について

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
-	受診率向上に向けて、がん検診受診率をより正確かつ精緻に、また、個人単位で把握することができるよう検討	施策を検討する段階のため、指標設定無し（着実に検討を推進すること）	-	-
121101	より科学的かつ効率的な受診勧奨策を、関係学会や企業等の協力を得て、都道府県及び市町村と連携して推進、受診者の立場に立ったがん検診を受診する上での利便性の向上に努める	受診勧奨実施市町村数 ※	-	市区町村におけるがん検診の実施状況調査
121102	【市町村及び検診実施機関】受診者が、がん検診の意義及び必要性を適切に理解できるよう努める 【市町村】がん検診の意義・必要性について、国民が正しく理解できるよう普及啓発	普及啓発キャンペーンの実施状況（資料の実質配布枚数、イベント参加者数）	-	がん検診受診率60%達成に向けた集中キャンペーン月間実施状況調査
-	感染症発生・まん延時等にごん検診の提供体制を一時的に縮小した場合でも、状況に応じて速やかに提供体制及び受診行動を回復させることができるよう、平時における準備等の対応について検討	施策を検討する段階のため、指標設定無し（着実に検討を推進すること）	-	-
121103	職域におけるがん検診について、実施状況の継続的な把握及び適切な実施に向けた課題の整理を行い、必要に応じて、法的な位置付けも含めた対応を検討	指針に基づく検診の実施率	-	保険者データヘルス全数調査

※特別区を含む。以下、同じ。

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
121201	検診受診率の向上	検診受診率	1031	国民生活基礎調査

#	分野別アウトカム	指標	3期	データソース
100003	検診がん種の早期がん割合の増加	検診がん種別早期がん割合	-	全国がん登録
100004	検診がん種の進行がん罹患率の減少	検診がん種別進行がん罹患率	-	全国がん登録

#	最終アウトカム	指標	3期	データソース
000002	検診がん種の死亡率減少	がん種別年齢調整死亡率（75歳未満、全年齢）	1002	人口動態統計
000005	がん罹患率（子宮頸・大腸）*；減少 ※	がん種別年齢調整罹患率	1004	全国がん登録

\*；上皮内がん除く。  
※がん検診により子宮頸部・大腸の前がん病変を早期発見して治療介入すれば、子宮頸がん・大腸がんの罹患数が減少する。

がん検診の精度管理等について

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
122101	レセプトやがん登録情報を活用したがん検診の精度管理について、技術的支援等を行う	がん検診の精度管理について技術的支援を行った市町村への支援数（特別区を含む）	-	厚生労働科学研究
122102	精密検査受診率の低い市町村の実態把握を行う仕組みについて検討するとともに、都道府県による指導・助言等の取組を推進 【市町村】都道府県による指導・助言等を踏まえ、引き続き、指針に基づいたがん検診の実施及び精度管理の向上に取り組む	精密検査受診率の低い市町村の実態把握を行い、実際にそれらの市町村に指導・助言等の取り組みを実施した都道府県数	-	都道府県用チェックリスト実施率調査
122103	職域におけるがん検診の実態把握に係る方法を検討した上で、職域におけるがん検診の精度管理を推進するための取組について、保険者に対する技術的支援や、産業保健総合支援センターを通じた事業場の産業保健スタッフに対する周知等を含め検討	全被用者保険者における要精密検査対象者への受診勧奨の実施割合	-	保険者データヘルス全数調査
122104	【国及び都道府県】職域を含めた、がん検診の実施者による分かりやすい情報提供を推進	正しいがん検診の周知のため、住民に対し、がん検診の正しい情報提供を実施した市町村数	-	検診中（市区町村用チェックリスト実施率調査）

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
122201	精密検査受診率の向上	精密検査受診率	1032	地域保健・健康増進事業報告
122202	がん発見率の向上	がん発見率	-	地域保健・健康増進事業報告
122203	不利益の低減	偽陽性割合	-	地域保健・健康増進事業報告



「第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル 暫定版」：がんの2次予防（がん検診）

科学的根拠に基づくがん検診の実施について

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
-	諸外国における取組との経年的な比較調査を実施する仕組みについて検討	指標設定無し（着実に検討を推進すること）	-	-
123101	指針に基づくがん検診の科学的根拠に基づいた効果検証を進めるとともに、対策型検診の項目の導入に係るプロセスの明確化等について検討	指針の遵守市町村数	-	市区町村におけるがん検診の実施状況調査
123102		指針に基づかないがん検診の中止市町村数	-	市区町村におけるがん検診の実施状況調査
-	指針に基づかないがん検診に係る効果検証の方法について検討するとともに、指針に基づかないがん検診の効果検証を希望する関係学会や企業等と、地方公共団体のマッチングを促進する仕組みについて検討	指標設定無し（着実に検討を推進すること）	-	-
-	組織型検診の構築に向け、科学的根拠に基づくがん検診の実施に向けた取組により精度管理を向上させつつ、課題を整理し、その対応を検討	指標設定無し（着実に検討を推進すること）	-	-

医療提供全般

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
211101	【国及び都道府県】地域の実情に応じ、均てん化を推進するとともに、持続可能ながん医療の提供に向け、拠点病院等の役割分担を踏まえた集約化を推進（その際、国は、都道府県がん診療連携協議会等に対し、好事例の共有や他の地域や医療機関との比較が可能となるような検討に必要なデータの提供などの技術的支援を行う）	役割分担に関する議論が行われている都道府県の数	-	現況報告書
211102	拠点病院等を中心に、患者に対するがんの告知や、インフォームド・コンセントの取得、セカンドオピニオンの提示などが適切な提供に実施されるような体制整備を引き続き推進	がん治療前にセカンドオピニオンに関する話を受けたがん患者の割合	2025	患者体験調査
211103	【国及び都道府県】感染症発生・まん延時や災害時等の状況下においても、必要ながん医療を提供できるよう、診療機能の役割分担や、各施設が協力した人材育成や応援体制の構築等、地域の実情に応じた連携体制を整備する取組を平時から推進	（参考）BCPを整備している拠点病院等の割合	-	現況報告書
211104	拠点病院等、小児がん拠点病院等、がんゲノム医療中核拠点病院等が相互に連携可能となるよう検討	（参考）BCPを整備している病院の数	-	現況報告書
212105	拠点病院等、小児がん拠点病院等、がんゲノム医療中核拠点病院等が相互に連携可能となるよう検討	都道府県協議会に小児がん拠点病院等が参加している都道府県の数※	-	現況報告書

※ゲノム拠点は自動的に連携される。

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
211201	医療機関の機能分担を通じた質の高い安心な医療の効率的な提供	担当した医師ががんについて十分な知識や経験を持っていたと思う患者の割合	-	患者体験調査

#	分野別アウトカム	指標	3期	データソース
200001	全国的ながん診療の質の向上・均てん化	がんの診断・治療全体の総合的評価（平均点または評価が高い割合）	2005	患者体験調査

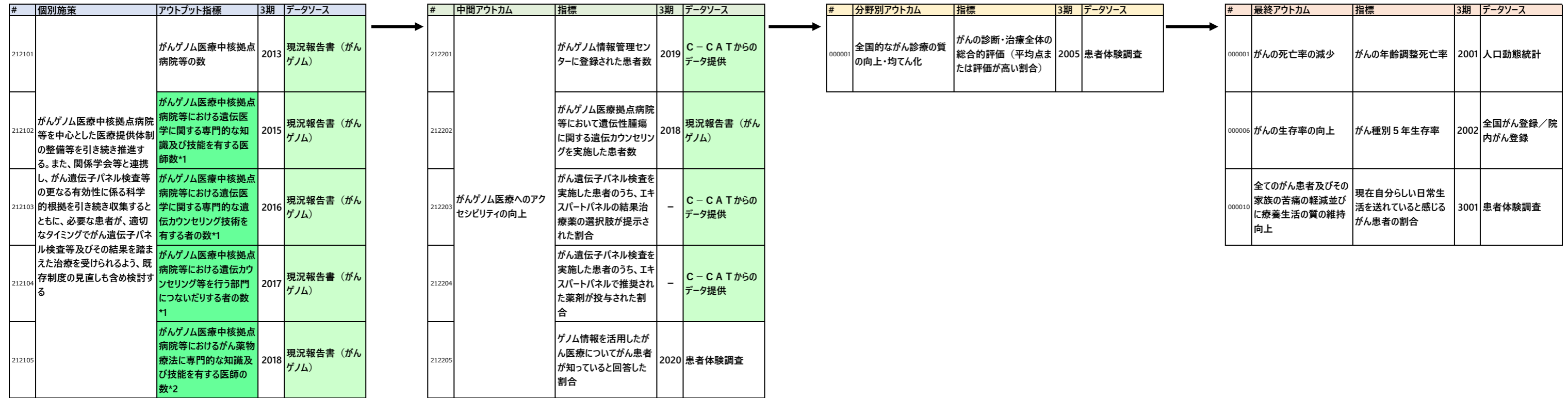
#	最終アウトカム	指標	3期	データソース
000001	がんの死亡率の減少	がんの年齢調整死亡率	2001	人口動態統計
000006	がんの生存率の向上	がん種別5年生存率	2002	全国がん登録／院内がん登録
000010	全てのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上	現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	3001	患者体験調査

病理診断

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
211106	質の高い病理診断や細胞診断を提供するための体制の整備を引き続き推進	病理診断に携わる専門的な知識及び技能を有する医師が1人以上配置されている拠点病院等の割合（がん診療連携拠点病院：専従の病理診断に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師が1人以上配置されている割合、地域がん診療病院：専任の病理診断に携わる専門的な知識及び技能を有する医師が1人以上配置されている割合をそれぞれ評価）	-	現況報告書
211107		細胞診断に関する専門資格を有する者が1人以上配置されている拠点病院等の割合（がん診療連携拠点病院：専任の細胞診断に関する専門資格を有する者が1人以上配置されている割合、地域がん診療病院：細胞診断に関する専門資格を有する者が1人以上配置されている割合をそれぞれ評価）	-	現況報告書

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
211202	タイムリーな病理診断	初診時から確定診断までの1ヶ月未満の人の割合	-	検討中（患者体験調査or院内がん登録＋DPCorNDB）

「第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル 暫定版」：がん医療提供体制等<がんゲノム医療>



\*1. がんゲノム医療中核拠点病院等における人数

\*2. がんゲノム医療中核拠点病院、がんゲノム医療拠点病院における人数

手術療法について

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
213101	標準的治療の提供に加えて、科学的根拠に基づく、ロボット支援手術を含む鏡視下手術等の高度な手術療法の提供についても、医療機関間の役割分担の明確化及び連携体制の整備等の取組を進める	拠点病院等における我が国に多いがん*1の鏡視下手術の割合	2031	現況報告書
213102		厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業(JANIS)へ登録している拠点病院等の割合	-	現況報告書

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
213201	安全かつ質の高い手術治療の実施	我が国に多いがんの術後短期死亡率	2032	院内がん登録+DPC
213202		診断から手術までの日数（術前化学療法の対象外のがん種・ステージ患者を対象を限定）	-	院内がん登録+DPC

#	分野別アウトカム	指標	3期	データソース
200001	全国的ながん診療の質の向上・均てん化	がんの診断・治療全体の総合的評価（平均点または評価が高い割合）	2005	患者体験調査
200004	（標準的な）診断・医療の進歩	一般の人が受けられるがん医療は数年前と比べて進歩したと思う患者の割合	2003	患者体験調査
200005	治療選択についての情報提供の充実（必要な情報へのアクセス改善）	治療決定までに医療スタッフから治療に関する十分な情報を得られた患者の割合	-	患者体験調査

#	最終アウトカム	指標	3期	データソース
000001	がんの死亡率の減少	がんの年齢調整死亡率	2001	人口動態統計
000006	がんの生存率の向上	がん種別5年生存率	2002	全国がん登録/院内がん登録
000010	全てのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上	現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	3001	患者体験調査

放射線療法について

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
213103		IMRTを提供しているがん診療連携拠点病院*2の割合	2035	現況報告書
213104	【国及び都道府県】標準的治療の提供に加えて、科学的根拠に基づく高度な放射線療法の提供についても、医療機関間の役割分担の明確化及び連携体制の整備等の取組を進める	専従の放射線治療に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師が1人以上配置されているがん診療連携拠点病院の割合	2036	現況報告書
213105		診療放射線技師が2人以上配置されているがん診療連携拠点病院の割合	-	現況報告書
213106		専従の放射線治療に関する専門資格を有する常勤の看護師が放射線治療部門に1人以上配置されているがん診療連携拠点病院の割合	-	現況報告書
-	関係学会等と連携し、標準的治療及び粒子線治療、核医学治療、画像誘導即時適応技術を用いた治療等の高度な放射線療法の安全な提供体制の在り方について検討	あり方の検討段階のため、指標設定無し（着実に検討を推進すること）	-	-

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
213203	必要な患者に対する、最適な放射線治療のタイムリーかつ安全な実施	放射線治療関連QI（拠点病院等（QI研究参加施設*3）における標準的治療の実施割合）	-	院内がん登録+DPC
213204		拠点病院等（QI研究参加施設）における手術から放射線治療開始までの期間	-	院内がん登録+DPC

\*1. 大腸がん、肺がん、胃がん、乳がん、前立腺がん及び肝・胆・膵のがんを想定（以後、同）。  
 \*2. 地域がん診療連携拠点病院、都道府県がん診療連携拠点病院（各類型の特例型を含む）（以後、同）。  
 \*3. 診療の質評価指標（Quality Indicator, QI）研究参加施設（2019年症例解析には591施設が参加、うち、国指定のがん診療連携拠点病院等指定施設は386施設（拠点病院の86%）。（以後、同。）

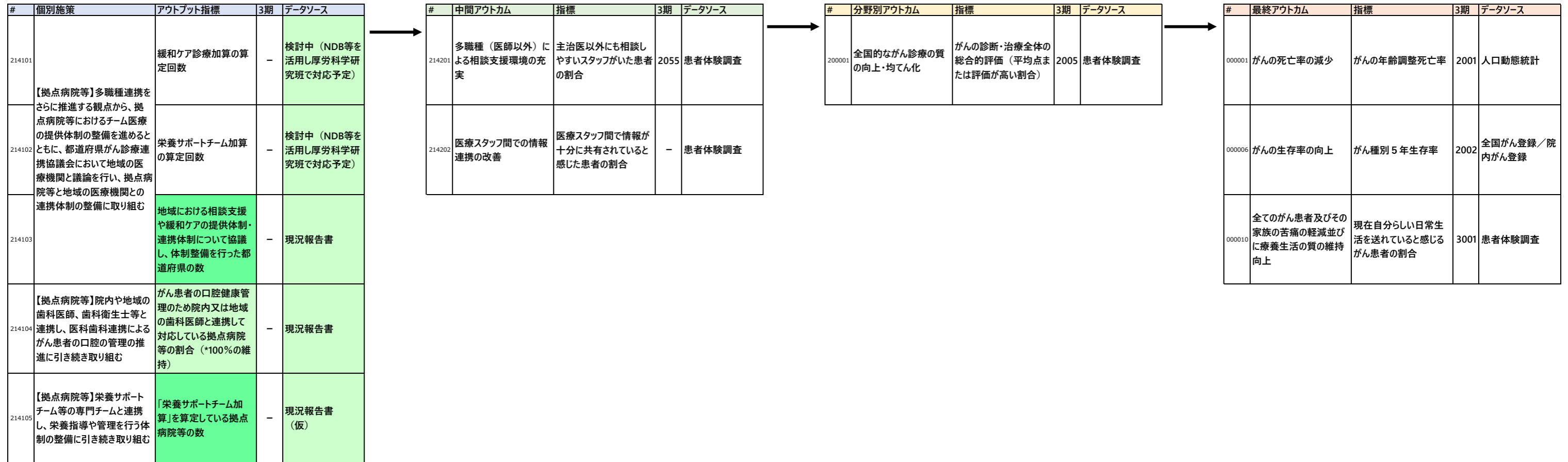
薬物療法について

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
213107	【国及び都道府県】患者が、病態や生活背景等、それぞれの状況に応じた適切かつ安全な薬物療法を受けられるよう、標準的治療の提供に加えて、科学的根拠に基づく高度な薬物療法の提供についても、医療機関間の役割分担の明確化及び連携体制の整備等の取組を進める	専任のがん薬物療法に関する専門資格を有する常勤の薬剤師が1人以上配置されているがん診療連携拠点病院の割合	2040	現況報告書
213108		薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師が1人以上配置されている拠点病院等の割合 <small>(がん診療連携拠点病院：専任の薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師が1人以上配置されている割合、地域がん診療病院：専任の薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師が1人以上配置されている割合をそれぞれ評価)</small>	2041	現況報告書
213109		がん看護又はがん薬物療法に関する専門資格を有する常勤の看護師が外来化学療法室に1人以上配置されている拠点病院等の割合 <small>(がん診療連携拠点病院：専任のがん看護又はがん薬物療法に関する専門資格を有する常勤の看護師が外来化学療法室に1人以上配置されている割合、地域がん診療病院：専任のがん看護又はがん薬物療法に関する専門資格を有する常勤の看護師が外来化学療法室に1人以上配置されている割合をそれぞれ評価)</small>	-	現況報告書
213110		免疫関連有害事象を含む有害事象に対して、他診療科や他病院と連携等して対応している拠点病院等の割合	-	現況報告書
213111	国立がん研究センターや関係学会と連携し、国民が、薬物療法等に関する正しい情報を得ることができるよう、科学的根拠に基づく治療法に関する情報提供及び普及啓発を推進	自施設で対応できるがんについて提供可能な診療内容を病院HP等でわかりやすく広報している拠点病院等の割合	-	現況報告書
-	【国及び都道府県】バイオ後継品に係る新たな目標を踏まえ、使用促進のための具体的な方策を検討	方策の検討段階のため、指標設定無し（着実に検討を推進すること）	-	-

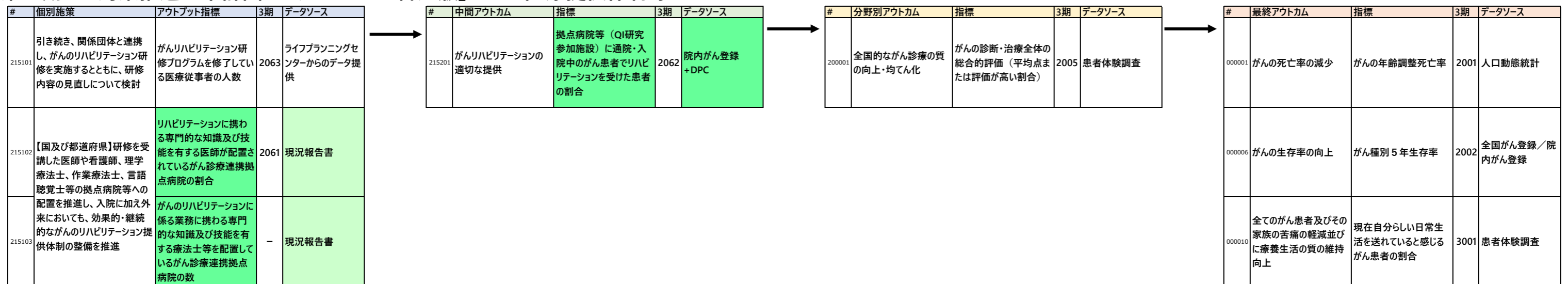
#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
213205	最新の知見に基づく適切な化学療法のタイムリー・安全な実施	化学療法/薬物療法関連QI（拠点病院等（QI研究参加施設）における標準的治療の実施割合）	2021	院内がん登録 +DPC
213206		遅延なく化学療法が行えているか（例：術後化学療法における手術から化学療法まで、あるいは、進行例における診断から化学療法までの期間）*4	-	院内がん登録 +DPC
213207	国民が免疫療法に関する正しい情報を取得	科学的根拠を有する免疫療法について国民が必要な情報を取得できている割合	2043	世論調査（仮）

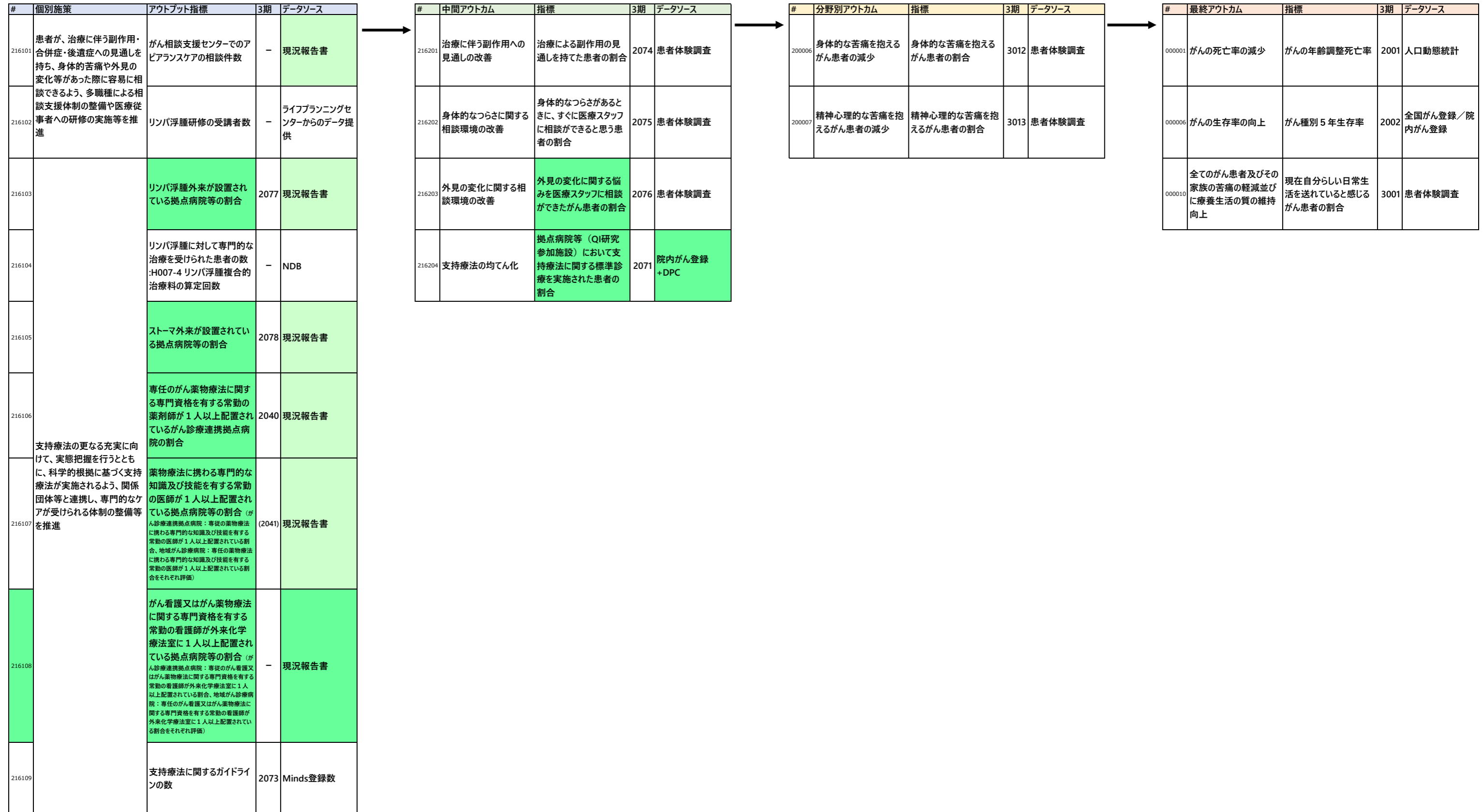
\*4. 化学療法を遅延なく受けることができているかを評価。測定対象の定義や測定方法について、研究班で検討予定。

「第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル 暫定版」：がん医療提供体制等＜チーム医療の推進＞



「第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル 暫定版」：がん医療提供体制等＜がんのリハビリテーション＞





「第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル 暫定版」：がん医療提供体制等<がんと診断された時からの緩和ケアの推進>

緩和ケアの提供について

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
217101	拠点病院等を中心とした医療機関において、がん医療に携わる全ての医療従事者により、がん患者の身体的苦痛や、がん患者やその家族等の精神的苦痛、社会的な問題等の把握及びそれらの個別の状況に応じた適切な対応が、地域の実情に応じて、診断時から一貫して行われる体制の整備を推進	拠点病院等の緩和ケアチーム新規診療症例数	-	現況報告書
217102		特定疾患治療管理料 がん患者指導管理料イの算定数	-	NDB
217103	拠点病院等を中心に、地域の医療機関や在宅療養支援診療所等の医療・介護を担う機関と連携し、在宅を含めた地域における緩和ケア提供体制の整備を推進	緩和ケア外来の新規診療患者数	-	現況報告書
217104		拠点病院等1施設あたりの地域連携推進のための多施設合同会議の開催数	-	現況報告書
217105	関係学会等と連携し、国民に対する、緩和ケアに関する正しい知識の普及啓発を引き続き推進、【拠点病院等】地域の医療従事者も含めた緩和ケアに関する研修を定期的に開催するとともに、地域におけるがん診療や在宅医療に携わる医療機関、関係団体及び地方公共団体と連携し、専門的な疼痛治療を含む緩和ケアに係る普及啓発及び実施体制の整備を進める	神経ブロックの実施数: L101-神経ブロック(神経破壊剤又は高周波凝固法使用)-腹腔神経叢ブロック(神経破壊剤又は高周波凝固法使用)の件数	-	NDB
217106		緩和的放射線照射の実施数: M001-3(直線加速器による放射線治療)の2(1以外の場合)の件数	-	NDB
217107	入院だけでなく外来等における緩和ケアの充実に向け、専門的な人材の配置等も含め、検討	緩和ケア外来への地域の医療機関からの年間新規紹介患者数	-	現況報告書
-	緩和ケアに係る実地調査等を定期的かつ継続的に実施するための方策について、研究を行い、研究結果を踏まえ検討	方策の検討段階のため、指標設定無し	-	-
-	専門的な緩和ケアの質の評価等の方策について研究を行う。また、患者体験調査や遺族調査等により、患者やその家族等に、適切な緩和ケアが提供されているかどうかを、引き続き定期的かつ継続的に	指標設定無し(方策の検討段階、及び引き続き実施する取組のため)	-	-
217108	拠点病院等以外の医療機関における緩和ケアの充実に向けて、緩和ケア提供体制の実態や課題等を把握するための調査及び研究を行う	緩和ケア診療加算の算定回数	-	NDB
-	終末期医療を受ける場や療養場所の決定に至る意思決定及びこれらの場所における終末期医療の実態等について研究を行い、適切な療養場所の提供や、治療やケアの質の向上について検討	検討段階のため指標設定無し(着実に検討を進めること)	-	-

緩和ケア研修会について

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
217110	緩和ケア研修会の更なる推進に努めるとともに、関係団体等と連携し、医療用麻薬の適正使用や、専門的な緩和ケアへのつなぎ方等の観点も踏まえ、緩和ケア研修会の学習内容や、フォローアップ研修等について検討し、必要な見直しを行う	緩和ケア研修修了者数	3017	がん等における新たな緩和ケア研修等事業

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
217201	苦痛に対する適切なケア・治療の普及(緩和ケアチームの質向上)	医療者はつらい症状にすみやかに対応していたと感じる割合	-	患者体験調査・遺族調査
217202		患者報告アウトカム(PRO)の症状改善率 * 中期に指標を開発予定	-	検討中(日本緩和医療学会からのデータ提供)
217203		身体的なつらさがある時に、すぐに医療スタッフに相談ができると思う患者の割合	2075	患者体験調査
217204		心のつらさがあるときに、すぐに医療スタッフに相談できると感じている患者の割合	3011	患者体験調査
217205	がん患者が、医療者に苦痛の表出ができること	がんと診断されてから病気や療養生活について相談できたと感じるがん患者の割合	3002	患者体験調査
217206		家族の悩みや負担を相談できる支援が十分であると感じているがん患者・家族の割合	3003	患者体験調査
217207		医療従事者が耳を傾けてくれたと感じた患者の割合	2006	患者体験調査
217208	国民の緩和ケアへの理解度向上	国民の緩和ケアに関する認識	3018	世論調査(仮)
217209		国民の医療用麻薬に関する認識	3019	世論調査(仮)

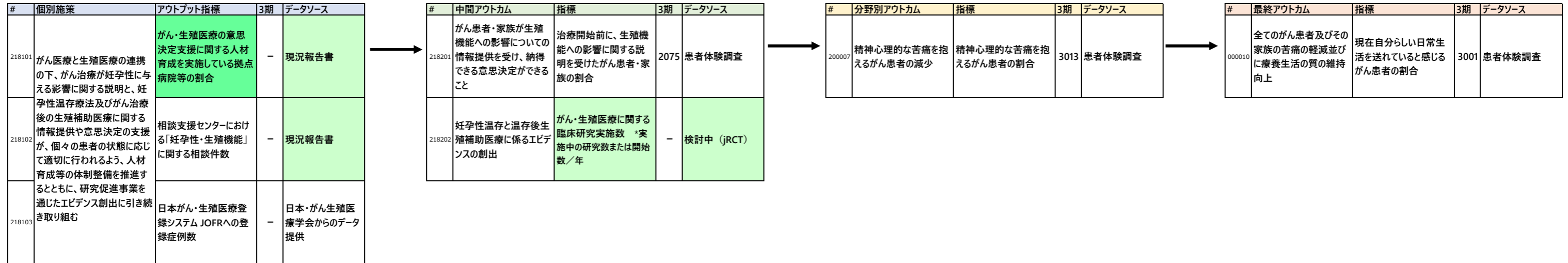
\* 中間評価に向けてデータを整備予定

#	分野別アウトカム	指標	3期	データソース
200006	患者・家族のQOL向上(苦痛の緩和)	身体的な苦痛を抱えるがん患者の割合	3012	患者体験調査
200007		精神的な苦痛を抱えるがん患者の割合	3013	患者体験調査
200008		療養生活の最終段階において、身体的な苦痛を抱えるがん患者の割合	3015	遺族調査
200009		療養生活の最終段階において、精神的な苦痛を抱えるがん患者の割合	3016	遺族調査
200010	緩和ケアの質の向上	在宅で亡くなったがん患者の医療に対する満足度	3033	遺族調査のサブグループ解析(全死亡のうち在宅死亡)

#	最終アウトカム	指標	3期	データソース
000010	全てのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上	現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	3001	患者体験調査



「第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル 暫定版」：がん医療提供体制等＜妊孕性温存療法＞



「第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル 暫定版」：希少がん及び難治性がん対策

希少がん対策

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
220101	【国及び都道府県】拠点病院等における診療実績や、医療機関間の連携体制等について、患者やその家族等の目線に立った分かりやすい情報提供を推進	希少がんホットラインへの問い合わせ数	-	国立がん研究センターからのデータ提供
220102		「がん情報サービス」または「希少がんセンター」に掲載された希少がんの数および当該ページへのPV数	-	国立がん研究センターからのデータ提供
220103	都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会における地域の実情を踏まえた議論を推進し、拠点病院等の役割分担に基づく医療機関間の連携体制の整備を推進	希少がん診療を積極的に受け入れている拠点病院等の数と他施設へ紹介する拠点病院等の数	-	現況報告書
220104	病理診断や治療に係る希少がん中央機関と拠点病院等との連携体制の整備を引き続き推進	中央病理コンサルテーションの数	-	国立がん研究センターからのデータ提供
220105	希少がん領域における薬剤アクセスの改善に向けて、日本の薬事規制等の海外の中小バイオ企業への周知等を通じ、日本での早期開発を促すなど治験の実施（国際共同治験への参加を含む。）を促進する方策を検討するとともに、希少がん中央機関、拠点病院等、関係学会及び企業等と連携した研究開発を推進	希少がんに対する臨床試験を実施している拠点病院等の数	-	現況報告書
220106	関係学会等と連携した診療ガイドラインの充実を図る	希少がんに関するガイドラインの数（がん種に対するガイドラインの作成率）	-	Minds登録数

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
220201	希少がんの患者の診療情報へのアクセス拡充	治療スケジュールの見通しに関する情報を十分得ることができた希少がん患者の割合	-	患者体験調査
220202	希少がん診療における適切な役割分担の実現	希少がん診療を積極的に受け入れている拠点病院等における治療開始数	-	現況報告書 + 院内がん登録
220203	連携の円滑化（速やかな医療の提供）	希少がん患者の初診から診断までの時間、診断から治療開始までの時間	2082	患者体験調査

#	分野別アウトカム	指標	3期	データソース
200011	希少がん患者の高度かつ専門的な医療へのアクセシビリティの向上	希少がんについて、担当した医師ががんについて十分な知識や経験を持っていると思う患者の割合	2083	患者体験調査

#	最終アウトカム	指標	3期	データソース
000007	希少がんの生存率向上	希少がんの5年生存率	2002	全国がん登録/院内がん登録
000011	希少がん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上	現在自分らしい日常生活を送れていると感じる希少がん患者の割合	3001	患者体験調査

難治性がん対策

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
220107	【国及び都道府県】拠点病院等における診療実績や、医療機関間の連携体制等について、患者やその家族等の目線に立った分かりやすい情報提供を推進	難治性がん（*1）に関するHP等の整備を行っている拠点病院等の数	-	現況報告書
220108	都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会における地域の実情を踏まえた議論を推進し、拠点病院等の役割分担に基づく医療機関間の連携体制の整備を推進	難治性がん（*1）診療を積極的に受け入れている拠点病院等の数と他施設へ紹介する拠点病院等の数	-	現況報告書
220109	難治性がん領域における薬剤アクセスの改善に向けて、日本の薬事規制等の海外の中小バイオ企業への周知等を通じ、日本での早期開発を促すなど治験の実施（国際共同治験への参加を含む。）を促進する方策を検討するとともに、希少がん中央機関、拠点病院等、関係学会及び企業等と連携した研究開発を推進	難治性がん（*1）に対して臨床試験を行っている拠点病院等の数	-	現況報告書

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
220204	難治性がん診療における適切な役割分担の実現	難治性がん（*1）診療を積極的に受け入れている拠点病院等における治療開始数	-	現況報告書 + 院内がん登録

\*1. 膵がんを代表例として想定。難治性がんの定義について、今後検討が必要。

#	分野別アウトカム	指標	3期	データソース
200001	（難治性がんを含む）全国的ながん診療の質の向上・均てん化	がんの診断・治療全体の総合的評価（平均点または評価が高い割合）（*2）	2005	患者体験調査

\*2. がん種別で評価が困難なため全体の評価で代替。

#	最終アウトカム	指標	3期	データソース
000003	難治性がんの年齢調整死亡率の減少	難治性がん（代表例：膵がん）の年齢調整死亡率	2002	人口動態統計
000008	難治性がんの生存率向上	難治性がん（代表例：膵がん）の5年生存率	2002	全国がん登録/院内がん登録
000010	（難治性がんを含む）がん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上	現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合（*2）	3001	患者体験調査

「第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル 暫定版」：小児がん・AYA世代のがん対策

小児がん対策

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
230101	小児がん拠点病院等と、拠点病院等や地域の医療機関等との連携を含め、地域の実情に応じた小児・AYA世代のがん医療提供体制の整備を推進、また、小児がん拠点病院連絡協議会における地域ブロックを超えた連携体制の整備に向けた議論を推進	小児がん拠点病院等で小児がんの薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する医師の数	-	現況報告書 (小児がん)
230102		小児がん拠点病院等で小児の手術に携わる、小児がん手術に関して専門的な知識及び技能を有する医師の人数	-	現況報告書 (小児がん)
230103		小児がん拠点病院等で小児がんの放射線療法に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数	-	現況報告書 (小児がん)
230104		小児がん拠点病院等における小児がん看護に関する専門的な知識や技能を習得している看護師の人数	-	現況報告書 (小児がん)
230105		小児がん拠点病院等における医療環境にある子どもや家族への療養支援に関する専門的な知識及び技能を有する者の人数	-	現況報告書 (小児がん)
-	【小児がん拠点病院等】目設の診療実績、診療機能や、他の医療機関との連携体制等について、患者やその家族等の目線に立った分かりやすい情報提供に取り組む	適切な測定指標が無いため指標設定無し (※拠点病院では整備指針で必須要件のため100%となる)	-	-
230106	小児がん経験者の晚期合併症について実態把握を行うとともに、小児がん拠点病院等と、拠点病院等、地域の医療機関、かかりつけ医等の連携を含め、地域の実情に応じた小児・AYA世代のがん患者の長期フォローアップの在り方を検討	都道府県協議会でフォローアップの連携体制について議論している都道府県数 (参考) 長期フォローアップ外来を設置している小児がん拠点病院等の施設数	-	現況報告書 (小児がん)
230107	日本の薬事規制等の海外の中小バイオ企業への周知等を通じ、日本での早期開発を促すなど治験の実施 (国際共同治験への参加を含む) を	施策の検討段階のため、指標設定無し (着実に検討を進めること)	-	-

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
230201	小児がん診療の集約化	小児がん拠点病院で治療を受けた小児がん患者の割合	-	現況報告書 + 院内がん登録
230202	小児がん相談支援の拡充	がん患者の家族の悩みや負担を相談できる支援・サービス・場所が十分あると思う小児がん患者の割合	-	小児患者体験調査
230203	長期フォローアップの認知・利用拡充	長期フォローアップについて知っているか回答した小児がん患者の割合	-	小児患者体験調査
230204	小児がん領域での研究開発の推進	小児がん拠点病院において実施されている小児がんに関する治験数	-	現況報告書 + jRCT

#	分野別アウトカム	指標	3期	データソース
200002	小児がん診療の質の向上・均てん化	小児がん患者のがんの診断・治療全般の総合評価 (平均点又は評価が高い人の割合)	2083	小児患者体験調査

#	最終アウトカム	指標	3期	データソース
000009	小児がん患者の生存率向上	小児がん患者の5年生存率	2091	全国がん登録 / 院内がん登録

AYA世代のがん対策

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
230108	小児がん拠点病院等と、拠点病院等や地域の医療機関等との連携を含め、地域の実情に応じた小児・AYA世代のがん医療提供体制の整備を推進、また、小児がん拠点病院連絡協議会における地域ブロックを超えた連携体制の整備に向けた議論を推進	多職種からなるAYA支援チームを設置している拠点病院等の割合	-	現況報告書

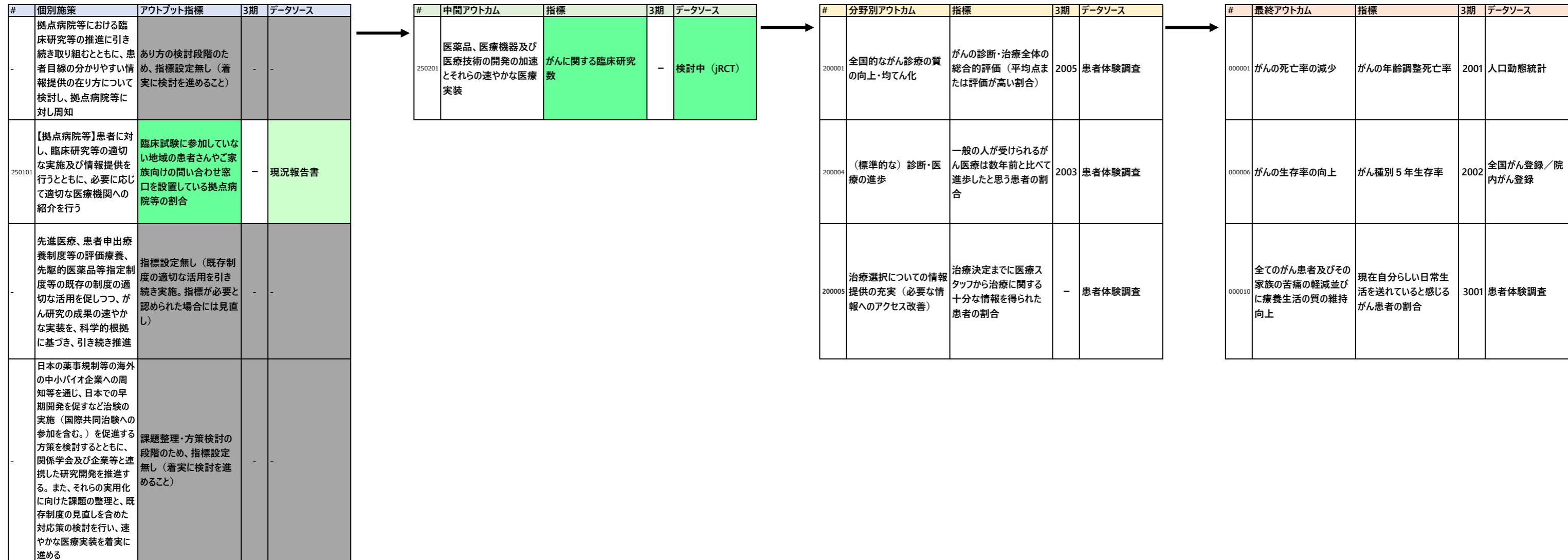
#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
230205	AYA患者の状況や希望に応じた支援の拡充	がんと診断されてから病気が療養生活について相談できたと感じる若年がん患者の割合	3002	患者体験調査
230206		外見の変化に関する悩みを医療スタッフに相談ができた若年患者の割合	2076	患者体験調査
230207		治療開始前に、生殖機能への影響に関する説明を受けたがん患者・家族の割合	2093	患者体験調査、小児患者体験調査

#	分野別アウトカム	指標	3期	データソース
200003	AYA世代のがん診療の質の向上・均てん化	若者がん患者の診断・治療全体の総合評価 (平均点または評価が高い割合)	2005	患者体験調査

#	最終アウトカム	指標	3期	データソース
000012	若年がん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上	現在自分らしい日常生活を送れていると感じる若年がん患者の割合	3001	患者体験調査



「第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル 暫定版」：新規医薬品、医療機器及び医療技術の速やかな医療実装



相談支援について

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
311101	【拠点病院等】がん相談支援センターの認知度向上及びその役割の理解の促進のため、地域の関係機関等と連携して、自施設に通院していない者も含む患者やその家族等への適切なタイミングでの周知に引き続き取り組む。また、相談支援体制へのアクセシビリティを向上させるため、オンライン等を活用した体制整備を進める	がん相談支援センターでの自施設・他施設からの新規相談件数（全国の拠点病院等での総数）	-	現況報告書
311102	相談支援の質を担保するため、関係団体等と連携し、がん相談支援に係る研修等に引き続き取り組む	相談員研修を受講したがん相談支援センターの相談員の人数	-	現況報告書
311103	上記の内、フォローアップ研修を受講したがん相談支援センターの相談員の人数	上記の内、フォローアップ研修を受講したがん相談支援センターの相談員の人数	-	現況報告書
-	持続可能な相談支援体制の在り方等について検討	あり方の検討段階のため指標設定無し（着実に検討を進めること）	-	-
311104	拠点病院等と民間団体による相談機関やピア・サポーター等との連携体制の構築について検討する。併せて、相談支援の一層の充実を図るため、ICTや患者団体、社会的人材リソースを活用し、必要に応じて地方公共団体等の協力が得られる体制整備の方策について検討	拠点病院等1施設あたりの連携している患者団体の数	-	現況報告書
311105	相談支援等に携わる者からピア・サポーター等につなげるための仕組みについても検討	拠点病院等1施設あたりの体験を語り合う場の開催数	-	現況報告書

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
311201	がん相談支援センターの認知度	がん相談支援センターについて知っているがん患者の割合	3023	患者体験調査 小児患者体験調査
311202	がん相談支援センターの一般の人の認知度	治療法や病院についてがん相談支援センターで情報入手しようと思う人の割合	-	世論調査（仮）
311203	がんと診断されてから相談することができること	がんと診断されてから病気が療養生活について相談できたと感じるがん患者の割合	3021	患者体験調査
311204	ピアサポーターの認知度	ピアサポーターについて知っているがん患者の割合	3024	患者体験調査

#	分野別アウトカム	指標	3期	データソース
300001	がん患者が、相談を利用し、役だったと思えること	相談支援センターを利用したことがある人が役に立ったがん患者の割合	-	患者体験調査
300002		ピアサポートを利用したことがある人が役に立ったがん患者の割合	-	患者体験調査
300003	がん患者の家族が、悩みや負担を相談できること	家族の悩みや負担を相談できる支援が十分であると感じているがん患者・家族の割合	3022	患者体験調査

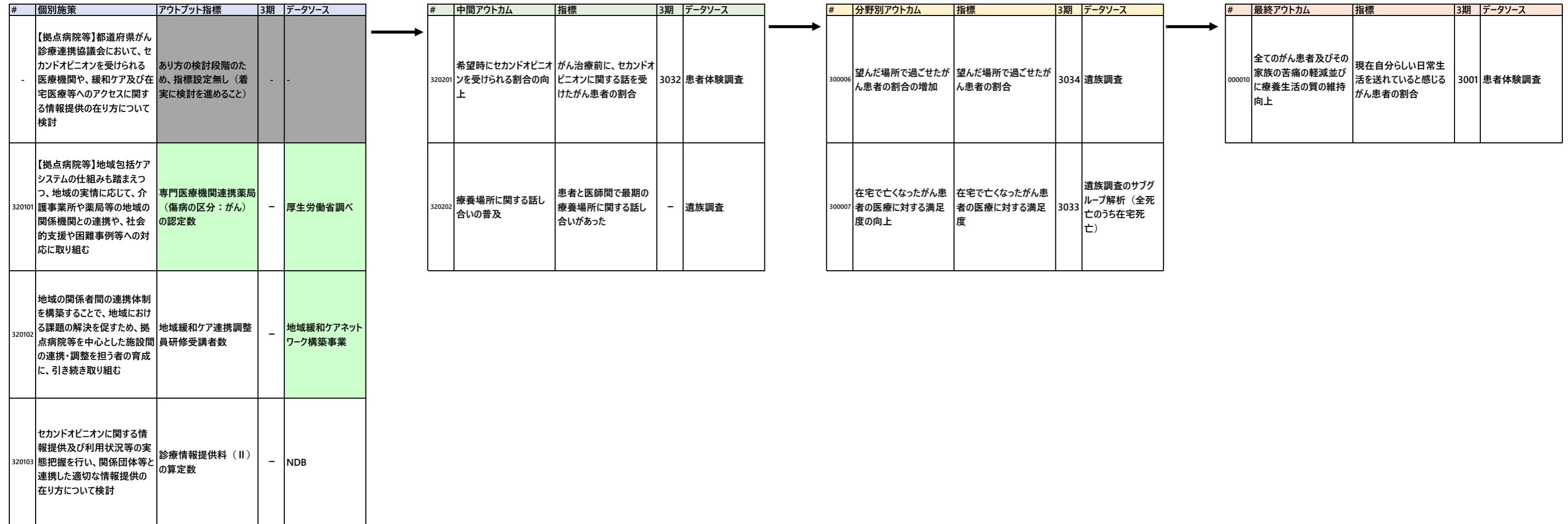
#	最終アウトカム	指標	3期	データソース
000010	全てのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上	現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	3001	患者体験調査

情報提供について

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
-	ニーズや課題等の把握を進め、「情報の均てん化」に向けた適切な情報提供の在り方について検討	あり方の検討段階のため現時点で指標設定無し（着実に検討を進めること）	-	-
312101	引き続き、国立がん研究センターや関係団体等と連携して、がんに関する正しい情報の提供及び理解の促進に取り組む	がん情報サービスにアクセスした件数	-	国立がん研究センターからのデータ提供
312102		がん情報サービスにおけるコンテンツ更新数	-	国立がん研究センターからのデータ提供
312103	障害等により情報取得や意思疎通に配慮が必要な人や、日本語を母国語としていない人への情報提供を適切に行うことで医療へのアクセスを確保するために、現状及び課題等を把握し、情報提供体制の在り方について検討	がん情報サービスにおける点字資料、音声資料数、資料の更新数	3026	国立がん研究センターからのデータ提供

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
312201	がん情報サービスの一般の人の認知度	治療法や病院についてがん情報サービスで情報入手しようと思う人の割合	-	世論調査（仮）
312202	探しているがんの情報にたどり着くことができること	がん情報サービスにアクセスし、探していた情報にたどり着くことができた人の割合	3025	がん情報サービスによる調査（国立がん研究センターからのデータ提供）
312203	がんと診断されてから相談することができること	がんと診断されてから病気が療養生活について相談できたと感じるがん患者の割合	3021	患者体験調査

#	分野別アウトカム	指標	3期	データソース
300004	がん患者が、治療に関する十分な情報を得ることができること	治療決定までに医療スタッフから治療に関する十分な情報を得られた患者の割合	-	患者体験調査 小児患者体験調査
300005	国民が、がんに対して正しい認識を持っていること	がんの新しい治療法に関する情報の中には、十分な科学的根拠がなく、注意を要するものがあると思う人の割合	-	世論調査（仮）



就労支援について（医療機関側）

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
-	現在の両立支援制度の効果及び課題を明らかにし、普及啓発、主治医から産業医への情報提供をはじめとする医療機関等と産業保健との一層効果的な連携等について検討	指標設定なし（着実に検討を推進すること）	-	-
331101	医療機関等において就労支援に携わる者が、産業医等と連携し、患者・事業主間の治療と仕事の両立へ向けた調整を支援できる体制の整備に取り組む	拠点病院等のがん相談支援センターにおける就労に関する相談件数	3045	現況報告書
331102	療養・就労両立支援指導料の算定件数※ ※がんについて	-	-	NDB
331103	拠点病院等における就労の専門家による相談会の回数	-	-	現況報告書
331104	再就職支援を推進する観点から、拠点病院等とハローワークとの連携体制の整備に引き続き取り組む	ハローワークと連携した就職支援をおこなっている拠点病院等の数	3044	長期療養者就職支援事業報告

就労支援について（職場側）

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
331105	再就職支援を推進する観点から、拠点病院等とハローワークとの連携体制の整備に引き続き取り組む	長期療養者就職支援事業を活用した就職者数* *がんについて	-	長期療養者就職支援事業報告
-	就労支援のさらなる充実に向けて、様々な就労形態におけるがん患者の就労及び離職の実態を把握し、それを踏まえた就労支援の提供体制について検討	指標設定なし（着実に検討を推進すること）	-	-
-	中小企業も含めて、企業における支援体制や、時間単位の年次有給休暇や病気休暇、在宅勤務（テレワーク）等の柔軟な勤務制度や休暇制度の導入等の環境整備を更に推進するため、産業保健総合支援センター等の活用や助成金等による支援、普及啓発について検討	指標設定なし（着実に検討を推進すること）	-	-
331106	両立支援コーディネーターの更なる活用に向けて、その活動状況を把握するとともに、地域職域連携の観点からより効果的な配置について検討	両立支援コーディネーター研修修了者数	-	事業報告（労働者健康安全機構）

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
331201	診断時からの情報提供	治療開始前に、就労継続について説明を受けたがん患者の割合	3041	患者体験調査
331202	がんと診断された後の仕事の変化	がんと診断後も仕事を継続していたがん患者の割合	3042	患者体験調査
331203	がんと診断された後の仕事の変化	退職したがん患者のうち、がん治療の開始前までに退職した者の割合	3043	患者体験調査

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
331204	両立支援の制度利用	治療と仕事を両立するための社内制度等を利用した患者の割合	3046	患者体験調査
331205	両立のための職場環境整備	治療と仕事を両立するための勤務上の配慮がなされているがん患者の割合	3047	患者体験調査

#	分野別アウトカム	指標	3期	データソース
300008	経済・就労関連PROの向上	治療費用の負担が原因で、がんの治療を変更・断念したがん患者の割合	-	患者体験調査
300009		金銭的負担が原因で生活に影響があったがん患者の割合	-	患者体験調査
300010	がん患者・経験者の両立支援・就労支援に関する相談・支援体制へのアクセスの向上	がんと診断されてから病気や療養生活について相談できたと感じるがん患者の割合	3002	患者体験調査
300003		家族の悩みや負担を相談できる支援が十分であると感じているがん患者・家族の割合	3003	患者体験調査

#	最終アウトカム	指標	3期	データソース
000010	全てのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上	現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	3001	患者体験調査



「第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル 暫定版」：がん患者等の社会的な問題への対策（サバイバーシップ支援）

アピアランスケアについて

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
332101	医療従事者を対象とした研修等を引き続き開催するとともに、相談支援及び情報提供の在り方について検討	アピアランス支援研修修了者数	-	事業報告
332102	拠点病院等を中心としたアピアランスケアに係る相談支援・情報提供体制の構築について検討	拠点病院等におけるアピアランスに関する相談件数	-	現況報告書

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
332201	アピアランスケアに関する相談支援の利用	外見の変化に関する悩みを医療スタッフに相談ができたがん患者の割合	3048	患者体験調査

#	分野別アウトカム	指標	3期	データソース
300011	外見の変化に起因する苦痛の軽減	身体的・精神的な苦痛により日常生活に支障を来しているがん患者の割合	3014	患者体験調査

がん診断後の自殺対策について

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
333101		緩和ケア研修修了者数	3017	がん等における新たな緩和ケア研修等事業
333102	がん患者の診断後の自殺対策について、医療従事者等が正しい知識を身につけられるよう、研修等の開催や、相談支援及び情報提供の在り方について検討	自殺リスクに関する研修を実施した拠点病院等の数	-	現況報告書
333103		特定疾患治療管理料がん患者指導管理料イ算定数	-	NDB
333104		特定疾患治療管理料がん患者指導管理料ロ算定数	-	NDB
-	がん診断後の自殺対策を推進するため、がん患者の自殺リスクやその背景等について実態把握を行い、必要な対応について検討	実態把握の段階のため、指標設定無し（着実に実態把握を推進すること）	-	-

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
333201		心のつらさがあるときに、すぐに医療スタッフに相談できると感じている患者の割合	3011	患者体験調査
333202	気持ちのつらさに対する支援の利用	精神的な苦痛を抱えるがん患者の割合	3013	患者体験調査
333203		療養生活の最終段階において、精神的な苦痛を抱えるがん患者の割合	3016	遺族調査
333204		身体的なつらさがある時に、すぐに医療スタッフに相談ができると思う患者の割合	2075	患者体験調査
333205	身体的なつらさに対する支援の利用	身体的な苦痛を抱えるがん患者の割合	3012	患者体験調査
333206		療養生活の最終段階において、身体的な苦痛を抱えるがん患者の割合	3015	遺族調査

#	分野別アウトカム	指標	3期	データソース
300012	がん患者の自殺の要因の解消	がん患者の自殺数	3050	革新的がん自殺研究推進プログラム

その他の社会的な問題について

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
-	患者・経験者・家族等の経済的な課題等を明らかにし、関係機関や関係学会等と協力して、利用可能な施策の周知や課題解決に向けた施策について検討	検討段階のため指標設定無し（着実に検討を進めること）	-	-
334101	障害がある等により情報取得や意思疎通に配慮が必要ながん患者の実態やニーズ、課題を明らかにし、がん検診や医療へのアクセス等の在り方について検討	情報取得や意思疎通に配慮が必要な者に対するマニュアルを作成している拠点病院等の数	-	現況報告書
334102	【地方公共団体】がんに対する「偏見」の払拭や正しい理解につながるよう、民間団体や患者団体等と連携し、普及啓発に努める	拠点病院等で実施した、地域を対象とした、がんに関するセミナー等の開催回数（総数）	-	現況報告書

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
334201	がん患者の疎外感の解消	がんと診断されてから周囲に不必要な気を遣われている割合	-	患者体験調査
334202	がんに対する偏見の払拭	（家族以外の）周囲の人からがんに対する偏見を感じる割合	-	患者体験調査

#	分野別アウトカム	指標	3期	データソース
300013	がんによる社会からの隔離の解消	がんであることを話せる割合	-	世論調査（仮）

「第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル 暫定版」：ライフステージに応じた療養環境への支援

小児・AYA世代について

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
341101	医療従事者と教育関係者との連携に努めるとともに、療養中に教育を必要とする患者が適切な教育を受けることのできる環境の整備、就学・復学支援等の体制整備を行う。また、ICTを活用した遠隔教育について、課題等を明らかにするため、実態把握を行う	小児がん拠点病院等のがん相談支援センターにおける、小児・AYA世代のがん患者の発育及び療養上の相談への対応・支援のうち、教育に関する相談件数	-	現況報告書（小児がん） *1
341102	成人診療科と連携した切れ目ない支援体制が、地域の実情に応じて構築できるよう、患者の健康管理の方法、地域における療養の在り方、再発・二次がん・併存疾患のフォローアップ体制等の医療・支援の在り方について検討	小児・AYA世代のがん長期フォローアップに関する研修会参加人数	-	事業報告
341103	小児・AYA世代のがん経験者の就労における課題の克服に向けて、ハローワークや地域若者サポートステーション等を含む就労支援に関する機関や患者団体と連携した取組を引き続き推進	小児がん拠点病院が連携している、小児がんに関する患者団体の数	-	現況報告書（小児がん）
341104	小児・AYA世代のがん患者の療養環境の課題等について実態把握を行い、診断時からの緩和ケア提供体制や在宅療養環境等の体制整備について、関係省庁と連携して検討	あり方の検討の段階のため、指標設定無し（着実に検討を推進すること）	-	-

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
341201	教育支援に関する医療スタッフからの説明の拡充	治療開始前に教育の支援等について医療スタッフから話があったと回答した人の割合	3052	小児患者体験調査
341202	就学支援制度の利用拡大	がん治療のため転校・休学・退学したと回答した人のうち、患者の治療中に何らかの就学支援制度を利用したと回答した人の割合	-	小児患者体験調査
341203	がん治療と教育の両立	治療中に学校や教育関係者から治療と教育の両立に関する支援を受けた家族の割合	3053	小児患者体験調査
341204	長期フォローアップの認知度向上	長期フォローアップについて知っていると感じた人の割合	-	小児患者体験調査
341205	医療者側からの就労支援（説明）の拡充	治療開始前に、就労継続について説明を受けたがん患者の割合	-	患者体験調査<若年がん患者のみ>
341206	つらい症状への速やかな対応改善	つらい症状には速やかに対応してくれたと思うと回答した人の割合	-	小児患者体験調査

#	分野別アウトカム	指標	3期	データソース
300003	家族への支援・サービス・場所の充実	家族の悩みや負担を相談出来る支援が十分であると感じているがん患者・家族の割合	3054	患者体験調査
300014	就学の継続	がん治療前に就学していた者のうち、「がん治療のために患者が転校・休学・退学したと回答した人」以外の割合	-	小児患者体験調査

#	最終アウトカム	指標	3期	データソース
000010	全てのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上	現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	3001	小児患者体験調査 患者体験調査

\*1. 成人拠点におけるAYA世代のがん患者に係る相談件数も算出することを検討中（令和4年度では現況報告書に対応項目無し）

\*2. 小児がん拠点病院と、小児がん連携病院の類型1を分母とする想定

「第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル 暫定版」：ライフステージに応じた療養環境への支援

高齢者について

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
342101	【拠点病院等】地域の医療機関やかかりつけ医、在宅療養支援診療所、訪問看護事業所等の医療・介護を担う機関、関係団体、地方公共団体等と連携し、患者やその家族等の療養生活を支えるための体制を整備するとともに、地域における課題について検討	当該がん医療圏において、地域の医療機関や在宅療養支援診療所等の医療・介護従事者とがんに関する医療提供体制や社会的支援、緩和ケアについて情報を共有し、役割分担や支援等について検討を行っている拠点病院等の割合	-	現況報告書
342102		介護支援等連携指導料の算定数（がん患者に限定）	-	NDB
342103		退院時共同指導料1の算定数（がん患者に限定）	-	NDB
-	高齢のがん患者が抱える課題について実態把握を行い、長期療養の中で生じる有害事象などに対応できるよう、患者の健康管理の方法、地域における療養の在り方、再発・二次がん・併存疾患のフォローアップ体制等について検討	あり方・施策の検討段階のため、指標無し（着実に検討を進めること）	-	-
342104	高齢のがん患者の、人生の最終段階における療養場所等の選択に関する意思決定を支援するための方策について検討	意思決定能力を含む機能評価を行い、各種ガイドラインに沿って、個別の状況を踏まえた対応をしている拠点病院等の割合	-	現況報告書

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
342201	家族の介護負担感の軽減	介護をしたことで、全体的に負担感が大きかったと回答した割合	-	遺族調査のサブグループ解析（仮）*3
342202	死亡場所で患者が受けた医療の構造・プロセスの改善	医師・看護師・介護職員など医療者同士の連携はよくなったと回答した割合	-	遺族調査のサブグループ解析（仮）*3
342203	最後の療養場所の希望や医療に関する話し合いの充実	患者と医師間で最期の療養場所に関する話し合いがあったと回答した割合	-	遺族調査のサブグループ解析（仮）*3

\*3. サブグループ解析は、遺族調査の結果を、75歳以上に限定して解析することを想定

#	分野別アウトカム	指標	3期	データソース
300006	死亡前1ヶ月間の患者の療養生活の質向上	望んだ場所で過ごせたがん患者の割合	-	遺族調査のサブグループ解析（仮）
300007	死亡場所で受けた医療に対する全般的満足度（>在宅かつ高齢者）向上	在宅で亡くなったがん患者の医療に対する満足度	-	遺族調査のサブグループ解析（仮）
300015	死亡前1ヶ月間の患者の療養生活の質向上	人生をまっとうと感じていた患者の割合	-	遺族調査のサブグループ解析（仮）

「第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル 暫定版」:

全ゲノム解析等の新たな技術を含む更なるがん研究の推進

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
-	「がん研究10か年戦略」の中間評価報告書や本基本計画を踏まえ、がん研究の更なる充実に向け、戦略の見直しを行う。また、関係省庁が協力し、多様な分野を融合させた先端的な研究を推進することにより、治療法の多様化に向けた取組をより一層推進する	戦略を検討するものであるため指標設定無し ※次期「がん研究10か年戦略」を令和5年度中に策定	-	-
410101	【AMED】基礎的な研究から実用化に向けた研究までを一体的に推進するため、有望な基礎研究の成果の厳選及び医薬品・医療機器の開発と企業導出を速やかに行うための取組を引き続き推進	「革新的がん医療実用化研究事業」事後評価	-	AMED
410102	「全ゲノム解析等実行計画2022」を着実に進め、ゲノム情報等により、患者等に不利益が生じないよう留意しつつ、新たな予防・早期発見等の開発を含めた患者還元や、がんや難病に係る研究・創薬への利活用等を推進	日本臨床研究実施計画・研究概要公開システム(jRCT)に登録されたゲノム変異にもとづくがんを対象とした臨床研究の数	-	jRCT、AMED
410103		日本臨床研究実施計画・研究概要公開システム(jRCT)に登録されたAMED疾患領域(がん)の研究数	-	jRCT、AMED
410104	本基本計画における各分野の政策課題の解決に資する研究を推進	厚生科研の採択課題における事後評価の平均	-	厚生労働省調べ
410105		「がん政策研究事業」成果に関する評価	-	厚生労働省調べ
-	格差の解消に向け、まずは各分野の取組の地域間、医療機関間の差を測定するための指標やその評価方法に係る研究を推進	指標設定無し(着実に研究を推進すること)	-	-

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
410201	がん研究論文数、引用数の増加	CSO(Common Scientific Outline)分類別・部位別論文数、引用数	4014	論文データベース Dimensions
410202		(AMEDにおけるがんに関する)研究成果を活用した臨床試験・治験への移行数	-	AMED
410203	基礎的研究成果として日常診療への導入を目指して推進される医療技術数の増加	(AMEDにおけるがんに関する)薬事承認件数(新規・適応拡大)(医療機器含む)	-	AMED
410204		(AMEDにおけるがんに関する)シーズの企業への導出件数	-	AMED

人材育成の強化

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
420101	関係学会・団体等と連携しつつ、がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材、がん予防の推進を行う人材、新たな治療法を開発できる人材等の専門的な人材の育成を推進する。また、専門的な人材の育成の在り方を検討するにあたっては、高齢化や人口減少等の背景を踏まえ、人材の効率的な活用等の観点を含め検討する	がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)養成プラン「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン」事業評価	-	文部科学省からのデータ提供
420102		がんゲノム医療コーディネーター研修会参加人数	4022	がんのゲノム医療従事者研修事業(～R4)、現況報告書(ゲノム)
420103	拠点病院等を中心に、専門的な人材の育成及び配置に積極的に取り組む。また、地域のがん医療や緩和ケア等を担う人材の育成及び配置について、拠点病院等や地域の職能団体が中心となって取り組む	がんリハビリテーション研修プログラムを修了している医療従事者の人数	2063	ライフプランニングセンターからのデータ提供
420104		小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会参加人数	4023	小児・AYA世代の長期フォローアップ体制整備事業
420105		緩和ケア研修修了者数	4021	がん等における新たな緩和ケア研修等事業
420106		緩和ケアに特化した講座を設置している大学の数	4024	文科省からのデータ提供

#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
420201	必要な知識を身に着けた専門的人材の増加	第4期がんプロで支援されたがん専門医療人材の人数	-	事業における取組状況調査
-	専門的人材の適正配置	今後、検討	-	-

「第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル 暫定版」:

がん教育及びがんに関する知識の普及啓発

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース	#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
430101	引き続き、学習指導要領に基づく、児童生徒の発達段階に応じたがん教育を推進する。その際、生活習慣が原因とならないがんもあることなど、がんに対する正しい知識が身に付くよう、医療従事者やがん患者等の外部講師の積極的な活用について周知を行うとともに、ICTの活用を推進するなど、各地域の実情に応じたがん教育の取組の充実とその成果の普及を図る	外部講師を活用してがん教育を実施した学校の割合	4031	がん教育の実施状況調査	430201		「がんは誰もがかかる可能性のある病気である。」に対して「正しい」と回答した割合	-	がん教育総合支援事業事業成果報告書
	都道府県及び市町村において、教育委員会及び衛生主管部局が連携して会議体を設置し、地域のがん医療を担う医師や患者等の関係団体とも協力しながら、また、学校医やがん医療に携わる医師、がん患者・経験者等の外部講師を活用しながら、がん教育が実施されるよう、必要な支援を行う				430202	国民ががん予防や早期発見の重要性を認識し、がんを正しく理解し向き合う	「がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。」に対して「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合	-	がん教育総合支援事業事業成果報告書
430102	【国及び地方公共団体、拠点病院等を中心とした医療機関】患者やその家族等の関係団体等の協力を得ながら、国民に対する、生活習慣や遺伝子等のがんの発生に関する基本的な情報も含めたがんに関する正しい知識の普及啓発に引き続き取り組む。その際には、啓発資料のデジタル化や対象者に応じた周知方法の工夫等により、より効果的な手法を用いる	がん情報サービスに含まれる項目数	-	国立がん研究センターからのデータ提供	430203	がんの新しい治療法に関する情報の中には、十分な科学的根拠がなく、注意を要するものがあると思う人の割合		-	世論調査（仮）（仮）
430103		拠点病院等で実施した、地域を対象とした、がんに関するセミナー等の開催回数（総数）	-	現況報告書					
430104	【事業主や医療保険者】がん対策推進企業アクション等の国や地方公共団体の事業を活用することも含め、雇用者や被保険者・被扶養者が、生涯のうちに約2人に1人ががんに罹患すると推計されていることや、がん検診やがんの治療と仕事の両立といったがんに関する正しい知識を得ることができるよう努める	がん対策推進企業アクションの参加企業数	4033	厚生労働省調べ					

がん登録の利活用の推進

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース	#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
440101	引き続き、質の高い情報収集に資する精度管理に取り組む	全国がん登録の精度指標としてのMI比・%DCO	2111	全国がん登録	440201	全国がん登録/院内がん登録の利用の推進	利用件数（総数・年あたり）	-	厚生労働省調べ/国立がん研究センター
	がん登録情報の利活用の推進について、現行制度における課題を整理し、がん登録推進法等の規定の整備を含め、見直しに向けて検討する。利活用の推進にあたっては、保健・医療分野のデジタル化に関する他の取組とも連携し、より有用な分析が可能となる方策を検討	指標設定無し（着実に検討を推進すること）	-	-					

患者・市民参画の推進

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース	#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
450101	【国及び都道府県】国民本位のがん対策を推進するため、基本計画及び「都道府県がん対策推進計画」の策定過程について、性別、世代、がん種等を考慮し、多様ながん患者等のがん対策推進協議会及び都道府県協議会等への参画を推進する。また、諸外国の公募制、代表制等の事例も踏まえつつ、患者・市民参画の更なる推進に向けた仕組みを検討	都道府県がん対策推進計画の策定過程におけるがん患者を代表する者の参加割合(参考:性別、年代等の多様性)	4001	厚生労働省調べ	450201	がん対策の重要性を認識し、がん医療について正しい理解を得、医療の向上に向け自らも協力する国民(がん患者含む)の割合増加	がん対策を進めるためには国民の協力が広く必要であり、積極的に関わりたいと考える人の割合	-	世論調査(仮)
450102	これまでがん研究分野で推進されてきた、がん患者及びがん経験者の参画の取組に係る知見について、患者・市民参画に関する研究成果も踏まえ、各分野への横展開を行う	厚生労働省科学研究を基に開催された研修会の開催回数	-	厚生労働科学研究	450202	医療従事者の意識向上	関係学会において患者・市民参画を知っていると回答した医療者の割合	-	検討中(日本癌治療学会からのデータ提供)
-	患者・市民参画を推進するにあたって、参画する患者・市民への啓発・育成を行う	今後、検討	-	-	-	-	-	-	-
-	医療従事者や関係学会に対しても、患者・市民参画に係る十分な理解が得られるよう、啓発等に取り組む	-	-	-	-	-	-	-	-

デジタル化の推進

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース	#	中間アウトカム	指標	3期	データソース
-	「がん予防」、「がん医療」、「がんとの共生」の各分野において、PHRの推進、現況報告書書のオンライン化、レセプトやがん登録情報等を活用したがん対策の評価、オンラインを活用した相談支援や効果的な情報提供等、ICTやAIを含むデジタル技術の活用による医療のデータ化とその利活用の推進について検討	個別施策を検討する段階のため、指標設定無し(着実に検討を進めること)	-	-	460201	(デジタルにより)がん患者・家族を含む国民が、適切な情報・医療資源・支援にアクセスしやすくなること	検討中(デジタル技術の活用のアウトカムをどのように評価するか、検討を行う。)	-	検討中
460101	患者やその家族等のアクセス向上や、医療・福祉・保健サービスの効率的・効果的な提供の観点から、SNS等を活用したがん検診の受診勧奨や、安心かつ安全なオンライン診療の提供、e-コンセント(電磁的方法によるインフォームド・コンセント)の活用等の治験のオンライン化、地方公共団体や医療機関における会議のオンライン化、相談支援のオンライン化に向けた取組を推進	患者とその家族が利用可能なインターネット環境を整備している拠点病院等の割合	-	現況報告書	-	-	-	-	-
460102	-	セカンドオピニオンを提示する場合は、必要に応じてオンラインでの相談を受け付けることができる体制を確保している拠点病院等の割合	-	現況報告書	-	-	-	-	-
460103	-	集学的治療等の内容や治療前後の生活における注意点等に関する、冊子や視覚教材等がオンラインでも確認できる拠点病院等の割合	-	現況報告書	-	-	-	-	-

# 「第4期がん対策推進基本計画評価指標一覧 暫定版」

【第88回がん対策推進協議会の資料からの変更箇所】

■：形式修正以外、■：形式修正

第89回がん対策推進協議会	資料3
令和5年7月10日	

分野	#	再掲	指標	3期	データソース
<b>全体目標「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんの克服を目指す。」</b>					
最終アウトカム指標	000001		がんの年齢調整死亡率（75歳未満、全年齢）	1001	人口動態統計
	000002		がん種別年齢調整死亡率（75歳未満、全年齢）	1002	人口動態統計
	000003		難治性がん（代表例：膵がん）の年齢調整死亡率	2002	人口動態統計
	000004		がんの年齢調整罹患率	1003	全国がん登録
	000005		がん種別年齢調整罹患率	1004	全国がん登録
	000006		がん種別5年生存率	2002	全国がん登録／院内がん登録
	000007		希少がんの5年生存率	2002	全国がん登録／院内がん登録
	000008		難治性がん（代表例：膵がん）の5年生存率	2002	全国がん登録／院内がん登録
	000009		小児がん患者の5年生存率	2091	全国がん登録／院内がん登録
	000010		現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	3001	患者体験調査、小児患者体験調査
	000011		現在自分らしい日常生活を送れていると感じる希少がん患者の割合	3001	患者体験調査
	000012		現在自分らしい日常生活を送れていると感じる若年がん患者の割合	3001	患者体験調査
<b>1. 科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実</b>					
分野別アウトカム指標	100001		がん種別年齢調整罹患率（胃・大腸・肺・女性乳房・喫煙関連がん）	1004	全国がん登録
	100002		がん種別年齢調整罹患率（肝・ATL・子宮頸部）	1004	全国がん登録
	100003		検診がん種別早期がん割合	-	全国がん登録
	100004		検診がん種別進行がん罹患率	-	全国がん登録
<b>がんの1次予防</b>					
<b>生活習慣について</b>					
アウトプット指標	111101		拠点病院等*1で実施した、地域を対象とした、がんに関するセミナー等の開催回数（総数）	-	現況報告書
中間アウトカム指標	111201		BMI18.5以上25未満（65歳以上はBMI20を超え25未満）の者の割合	1018	国民健康・栄養調査
	111202		食塩摂取量の平均値	1019	国民健康・栄養調査
	111203		野菜摂取量の平均値	1020	国民健康・栄養調査
	111204		果物摂取量の平均値	1021	国民健康・栄養調査
	111205		1日の歩数の平均値	-	国民健康・栄養調査
	111206		運動習慣者の割合	1017	国民健康・栄養調査
	111207		1日当たりの純アルコール摂取量が男性40g以上、女性20g以上の者の割合	1016	国民健康・栄養調査
	111208		中学生・高校生の飲酒者の割合	-	厚生労働科学研究
	111209		20歳以上の者の喫煙率	1011	国民健康・栄養調査
	111210		望まない受動喫煙（家庭・職場・飲食店）の機会を有する者の割合	1015	国民健康・栄養調査
	111211		中学生・高校生の喫煙者の割合	1012	厚生労働科学研究
	111212		妊婦の喫煙率	1013	厚生労働省調べ
<b>感染症対策について</b>					
<b>HPV</b>					
アウトプット指標	112101		HPVワクチンの実施率	-	地域保健・健康増進事業報告
<b>肝炎</b>					
アウトプット指標	112102		肝疾患専門医療機関数	-	地方自治体における肝炎対策実施状況調査
	112103		肝炎医療コーディネーターの養成者数	-	地方自治体における肝炎対策実施状況調査
	112104		B型肝炎定期予防接種実施率	参3	地域保健・健康増進事業報告
中間アウトカム指標	112201		B型・C型肝炎ウイルス検査受検率	参2	厚生労働科学研究
	112202		B型・C型肝炎ウイルス陽性者数	参1	「地域保健・健康増進事業報告（健康増進編）」及び「特定感染症検査等事業実績報告」
<b>HTLV-1</b>					
アウトプット指標	112105		HTLV-1関連のホームページの閲覧数（厚労省や厚生労働科学研究班作成のホームページのPV数）	-	厚生労働省調べ
	112106		HTLV-1関連の窓口数	-	結核感染症課調査
	112107		HTLV-1の保健所の検査数	-	結核感染症課調査
	112108		妊婦健康診査におけるHTLV-1抗体検査の公費負担実施率	-	母子保健課調査
中間アウトカム指標	112203		ヒトT細胞白血病ウイルス1型感染率	参4	厚生労働科学研究
<b>がんの2次予防（がん検診）</b>					
<b>受診率向上対策について</b>					
アウトプット指標	121101		受診勧奨実施市町村数（特別区を含む、以下同じ）	-	市区町村におけるがん検診の実施状況調査
	121102		普及啓発キャンペーンの実施状況（資料の実質配布枚数、イベント参加者数）	-	がん検診受診率60%達成に向けた集中キャンペーン月間実施状況調査
	121103		指針に基づく検診の実施率	-	保険者データヘルス全数調査
中間アウトカム指標	121201		検診受診率	1031	国民生活基礎調査
<b>がん検診の精度管理等について</b>					
アウトプット指標	122101		がん検診の精度管理について技術的支援を行った市町村への支援数（特別区を含む）	-	厚生労働科学研究
	122102		精密検査受診率の低い市町村の実態把握を行い、実際にそれらの市町村に指導・助言等の取り組みを実施した都道府県数	-	都道府県用チェックリスト実施率調査
	122103		全被用者保険者における要精密検査対象者への受診勧奨の実施割合	-	保険者データヘルス全数調査
	122104		正しいがん検診の周知のため、住民に対し、がん検診の正しい情報提供を実施した市町村数	-	検討中（市区町村用チェックリスト実施率調査）
中間アウトカム指標	122201		精密検査受診率	1032	地域保健・健康増進事業報告
	122202		がん発見率	-	地域保健・健康増進事業報告
	122203		偽陽性割合	-	地域保健・健康増進事業報告
<b>科学的根拠に基づくがん検診の実施について</b>					
アウトプット指標	123101		指針の遵守市町村数	-	市区町村におけるがん検診の実施状況調査
	123102		指針に基づかないがん検診の中止市町村数	-	市区町村におけるがん検診の実施状況調査

分野	#	再掲	指標	3期	データソース
<b>2. 患者本位で持続可能ながん医療の提供</b>					
分野別アウトカム指標	200001		がんの診断・治療全体の総合的評価（平均点または評価が高い割合）	2005	患者体験調査
	200002		小児がん患者のがんの診断・治療全般の総合的評価（平均点または評価が高い人の割合）	2083	小児患者体験調査
	200003		若者ががん患者のがんの診断・治療全体の総合的評価（平均点または評価が高い割合）	2005	患者体験調査
	200004		一般の人が受けられるがん医療は数年前と比べて進歩したと思う患者の割合	2003	患者体験調査
	200005		治療決定までに医療スタッフから治療に関する十分な情報を得られた患者の割合	—	患者体験調査
	200006		身体的な苦痛を抱えるがん患者の割合	3012	患者体験調査
	200007		精神心理的な苦痛を抱えるがん患者の割合	3013	患者体験調査
	200008		療養生活の最終段階において、身体的な苦痛を抱えるがん患者の割合	3015	遺族調査
	200009		療養生活の最終段階において、精神心理的な苦痛を抱えるがん患者の割合	3016	遺族調査
	200010		在宅で亡くなったがん患者の医療に対する満足度	3033	遺族調査のサブグループ解析（全死亡のうち在宅死亡）
	200011		希少がんについて、担当した医師ががんについて十分な知識や経験を持っていたと思う患者の割合	2083	患者体験調査
<b>がん医療提供体制等</b>					
<b>医療提供体制の均てん化・集約化</b>					
アウトプット指標	211101		役割分担に関する議論が行われている都道府県の数	—	現況報告書
	211102		がん治療前にセカンドオピニオンに関する話を受けたがん患者の割合	2025	患者体験調査
	211103		BCPに関する議論が行われている都道府県の数	—	現況報告書
	211104		（参考）BCPを整備している拠点病院等の割合	—	現況報告書
	211105		都道府県協議会に小児がん拠点病院等が参加している都道府県の数	—	現況報告書
	211106		病理診断に携わる専門的な知識及び技能を有する医師が1人以上配置されている拠点病院等の割合（がん診療連携拠点病院：専従の病理診断に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師が1人以上配置されている割合、地域がん診療病院：専任の病理診断に携わる専門的な知識及び技能を有する医師が1人以上配置されている割合をそれぞれ評価）	—	現況報告書
	211107		細胞診断に関する専門資格を有する者が1人以上配置されている拠点病院等の割合（がん診療連携拠点病院：専任の細胞診断に関する専門資格を有する者が1人以上配置されている割合、地域がん診療病院：細胞診断に関する専門資格を有する者が1人以上配置されている割合をそれぞれ評価）	—	現況報告書
中間アウトカム指標	211201		担当した医師ががんについて十分な知識や経験を持っていたと思う患者の割合	—	患者体験調査
	211202		初診時から確定診断までが1ヶ月未満の人の割合	—	検討中（患者体験調査or院内がん登録+DPC or NDB）
<b>がんゲノム医療</b>					
アウトプット指標	212101		がんゲノム医療中核拠点病院等の数	2013	現況報告書（がんゲノム）
	212102		がんゲノム医療中核拠点病院等における遺伝医学に関する専門的な知識及び技能を有する医師数*2	2015	現況報告書（がんゲノム）
	212103		がんゲノム医療中核拠点病院等における遺伝医学に関する専門的な遺伝カウンセリング技術を有する者の数*2	2016	現況報告書（がんゲノム）
	212104		がんゲノム医療中核拠点病院等における遺伝カウンセリング等を行う部門につないだりする者の数*2	2017	現況報告書（がんゲノム）
	212105		がんゲノム医療中核拠点病院等におけるがん薬物療法に専門的な知識及び技能を有する医師の数*3	2018	現況報告書（がんゲノム）
中間アウトカム指標	212201		がんゲノム情報管理センターに登録された患者数	2019	C-CATからのデータ提供
	212202		がんゲノム医療拠点病院等において遺伝性腫瘍に関する遺伝カウンセリングを実施した患者数	2018	現況報告書（がんゲノム）
	212203		がん遺伝子パネル検査を実施した患者のうち、エキスパートパネルの結果治療薬の選択肢が提示された割合	—	C-CATからのデータ提供
	212204		がん遺伝子パネル検査を実施した患者のうち、エキスパートパネルで推奨された薬剤が投与された割合	—	C-CATからのデータ提供
	212205		ゲノム情報を活用したがん医療についてがん患者が知っていると感じた割合	2020	患者体験調査
<b>手術療法・放射線療法・薬物療法について</b>					
<b>手術療法</b>					
アウトプット指標	213101		拠点病院等における我が国に多いがん*4の鏡視下手術の割合	2031	現況報告書
	213102		厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業（JANIS）へ登録している拠点病院等の割合	—	現況報告書
	中間アウトカム指標	213201		我が国に多いがん*4の術後短期死亡率	2032
213202			診断から手術までの日数（術前化学療法の対象外のがん種・ステージ患者に限定）	—	院内がん登録+DPC
<b>放射線療法</b>					
アウトプット指標	213103		IMRTを提供しているがん診療連携拠点病院*5の割合	2035	現況報告書
	213104		専従の放射線治療に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師が1人以上配置されているがん診療連携拠点病院の割合	2036	現況報告書
	213105		診療放射線技師が2人以上配置されているがん診療連携拠点病院の割合	—	現況報告書
	213106		専従の放射線治療に関する専門資格を有する常勤の看護師が放射線治療部門に1人以上配置されているがん診療連携拠点病院の割合	—	現況報告書
中間アウトカム指標	213203		放射線治療関連QI（拠点病院等（QI研究参加施設*6）における標準的治療の実施割合）	—	院内がん登録+DPC
	213204		拠点病院等（QI研究参加施設）における手術から放射線治療開始までの期間	—	院内がん登録+DPC
<b>薬物療法</b>					
アウトプット指標	213107		専任のがん薬物療法に関する専門資格を有する常勤の薬剤師が1人以上配置されているがん診療連携拠点病院の割合	2040	現況報告書
	213108		薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師が1人以上配置されている拠点病院等の割合（がん診療連携拠点病院：専従の薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師が1人以上配置されている割合、地域がん診療病院：専任の薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師が1人以上配置されている割合をそれぞれ評価）	(2041)	現況報告書
	213109		がん看護又はがん薬物療法に関する専門資格を有する常勤の看護師が外来化学療法室に1人以上配置されている拠点病院等の割合（がん診療連携拠点病院：専従のがん看護又はがん薬物療法に関する専門資格を有する常勤の看護師が外来化学療法室に1人以上配置されている割合、地域がん診療病院：専任のがん看護又はがん薬物療法に関する専門資格を有する常勤の看護師が外来化学療法室に1人以上配置されている割合をそれぞれ評価）	—	現況報告書
	213110		免疫関連有害事象を含む有害事象に対して、他診療科や他病院と連携等して対応している拠点病院等の割合	—	現況報告書



分野	#	再掲	指標	3期	データソース
中間アウトカム指標	213111		自施設で対応できるがんについて提供可能な診療内容を病院HP等でわかりやすく広報している拠点病院等の割合	-	現況報告書
	213205		化学療法/薬物療法関連QI(拠点病院等(QI研究参加施設)における標準的治療の実施割合)	2021	院内がん登録+DPC
	213206		遅延なく化学療法が行えているか(例:術後化学療法における手術から化学療法まで、あるいは、進行例における診断から化学療法までの期間)*7	-	院内がん登録+DPC
	213207		科学的根拠を有する免疫療法について国民が必要な情報を取得できている割合	2043	世論調査(仮)
<b>チーム医療の推進</b>					
アウトプット指標	214101		緩和ケア診療加算の算定回数	-	検討中(NDB等を活用し厚労科学研究班で対応予定)
	214102		栄養サポートチーム加算の算定回数	-	検討中(NDB等を活用し厚労科学研究班で対応予定)
	214103		地域における相談支援や緩和ケアの提供体制・連携体制について協議し、体制整備を行った都道府県の数	-	現況報告書
	214104		がん患者の口腔健康管理のため院内又は地域の歯科医師と連携して対応している拠点病院等の割合(*100%の維持)	-	現況報告書
	214105		「栄養サポートチーム加算」を算定している拠点病院等の数	-	現況報告書(仮)
中間アウトカム指標	214201		主治医以外にも相談しやすいスタッフがいた患者の割合	2055	患者体験調査
	214202		医療スタッフ間で情報が十分に共有されていると感じた患者の割合	-	患者体験調査
<b>がんのリハビリテーションの推進</b>					
アウトプット指標	215101		がんリハビリテーション研修プログラムを修了している医療従事者の人数	2063	ライフプランニングセンターからのデータ提供
	215102		リハビリテーションに携わる専門的な知識及び技能を有する医師が配置されているがん診療連携拠点病院の割合	2061	現況報告書
	215103		がんのリハビリテーションに係る業務に携わる専門的な知識及び技能を有する療法士等を配置しているがん診療連携拠点病院の数	-	現況報告書
中間アウトカム指標	215201		拠点病院等(QI研究参加施設)に通院・入院中のがん患者でリハビリテーションを受けた患者の割合	2062	院内がん登録+DPC
<b>支持療法の推進</b>					
アウトプット指標	216101		がん相談支援センターでのピアランスケアの相談件数	-	現況報告書
	216102		リンパ浮腫研修の受講者数	-	ライフプランニングセンターからのデータ提供
	216103		リンパ浮腫外来が設置されている拠点病院等の割合	2077	現況報告書
	216104		リンパ浮腫に対して専門的な治療を受けられた患者の数:H007-4リンパ浮腫複合的治療料の算定回数	-	NDB
	216105		ストーマ外来が設置されている拠点病院等の割合	2078	現況報告書
	216106		専任のがん薬物療法に関する専門資格を有する常勤の薬剤師が1人以上配置されているがん診療連携拠点病院の割合	2040	現況報告書
	216107		薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師が1人以上配置されている拠点病院等の割合(がん診療連携拠点病院:専任の薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師が1人以上配置されている割合、地域がん診療病院:専任の薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師が1人以上配置されている割合をそれぞれ評価)	(2041)	現況報告書
	216108		がん看護又はがん薬物療法に関する専門資格を有する常勤の看護師が外来化学療法室に1人以上配置されている拠点病院等の割合(がん診療連携拠点病院:専任のがん看護又はがん薬物療法に関する専門資格を有する常勤の看護師が外来化学療法室に1人以上配置されている割合、地域がん診療病院:専任のがん看護又はがん薬物療法に関する専門資格を有する常勤の看護師が外来化学療法室に1人以上配置されている割合をそれぞれ評価)	-	現況報告書
中間アウトカム指標	216109		支持療法に関するガイドラインの数	2073	Minds登録数
	216201		治療による副作用の見通しを持たない患者の割合	2074	患者体験調査
	216202		身体的なつらさがあるときに、すぐに医療スタッフに相談ができると思う患者の割合	2075	患者体験調査
	216203		外見の変化に関する悩みを医療スタッフに相談できたがん患者の割合	2076	患者体験調査
	216204		拠点病院等(QI研究参加施設)において支持療法に関する標準診療を実施された患者の割合	2071	院内がん登録+DPC
<b>がんと診断された時からの緩和ケアの推進</b>					
<b>緩和ケアの提供</b>					
アウトプット指標	217101		拠点病院等の緩和ケアチーム新規診療症例数	-	現況報告書
	217102		特定疾患治療管理料 がん患者指導管理料Iの算定数	-	NDB
	217103		緩和ケア外来の新規診療患者数	-	現況報告書
	217104		拠点病院等1施設あたりの地域連携推進のための多施設合同会議の開催数	-	現況報告書
	217105		神経ブロックの実施数:L101-神経ブロック(神経破壊剤又は高周波凝固法使用)-腹腔神経叢ブロック(神経破壊剤又は高周波凝固法使用)の件数	-	NDB
	217106		緩和的放射線照射の実施数:M001-3(直線加速器による放射線治療)の2(1以外の場合)の件数	-	NDB
				-	N/A
	217107		緩和ケア外来への地域の医療機関からの年間新規紹介患者数	-	現況報告書
	217108		緩和ケア診療加算の算定回数	-	NDB
<b>緩和ケア研修会</b>					
アウトプット指標	217109		緩和ケア研修修了者数	3017	がん等における新たな緩和ケア研修等事業
中間アウトカム指標	217201		医療者はつらい症状にすみやかに対応していたと感じる割合	-	患者体験調査・遺族調査
	217202		患者報告アウトカム(PRO)の症状改善率* 期中に指標を開発予定	-	検討中(日本緩和医療学会からのデータ提供)
	217203	再掲	身体的なつらさがある時に、すぐに医療スタッフに相談ができると思う患者の割合	2075	患者体験調査
	217204		心のつらさがあるときに、すぐに医療スタッフに相談できると感じている患者の割合	3011	患者体験調査
	217205		がんと診断されてから病気や療養生活について相談できたと感じるがん患者の割合	3002	患者体験調査
	217206		家族の悩みや負担を相談できる支援が十分であると感じているがん患者・家族の割合	3003	患者体験調査
	217207		医療従事者が耳を傾けてくれたと感じた患者の割合	2006	患者体験調査
	217208		国民の緩和ケアに関する認識	3018	世論調査(仮)
	217209		国民の医療用麻薬に関する認識	3019	世論調査(仮)

分野	#	再掲	指標	3期	データソース	
<b>妊孕性温存療法</b>						
アウトプット指標	218101		がん・生殖医療の意思決定支援に関する人材育成を実施している拠点病院等の割合	-	現況報告書	
	218102		相談支援センターにおける「妊孕性・生殖機能」に関する相談件数	-	現況報告書	
	218103		日本がん・生殖医療登録システムJOFRへの登録症例数	-	日本・がん生殖医療学会からのデータ提供	
	中間アウトカム指標	218201		治療開始前に、生殖機能への影響に関する説明を受けたがん患者・家族の割合	2075	患者体験調査、小児患者体験調査
		218202		がん・生殖医療に関する臨床研究実施数 *実施中の研究数または開始数/年	-	検討中 (jRCT)
<b>希少がん、難治性がん対策の推進</b>						
<b>希少がん対策</b>						
アウトプット指標	220101		希少がんホットラインへの問い合わせ数	-	国立がん研究センターからのデータ提供	
	220102		「がん情報サービス」または「希少がんセンター」に掲載された希少がんの数および当該ページへのPV数	-	国立がん研究センターからのデータ提供	
	220103		希少がん診療を積極的に受け入れている拠点病院等の数と他施設へ紹介する拠点病院等の数	-	現況報告書	
	220104		中央病理コンサルテーションの数	-	国立がん研究センターからのデータ提供	
	220105		希少がんに対する臨床試験を実施している拠点病院等の数	-	現況報告書	
	220106		希少がんに関するガイドラインの数 (がん種に対するガイドラインの作成率)	-	Minds登録数	
	中間アウトカム指標	220201		治療スケジュールの見直しに関する情報を十分得ることができた希少がん患者の割合	-	患者体験調査
220202			希少がん診療を積極的に受け入れている拠点病院等における治療開始数	-	現況報告書+院内がん登録	
220203			希少がん患者の初診から診断までの時間、診断から治療開始までの時間	2082	患者体験調査	
<b>難治性がん対策</b>						
アウトプット指標	220107		難治性がん*8に関するHP等の整備を行っている拠点病院等の数	-	現況報告書	
	220108		難治性がん*8診療を積極的に受け入れている拠点病院等の数と他施設へ紹介する拠点病院の数	-	現況報告書	
	220109		難治性がん*8に対して臨床試験を行っている拠点病院等の数	-	現況報告書	
中間アウトカム指標	220204		難治性がん*8診療を積極的に受け入れている拠点病院等における治療開始数	-	現況報告書+院内がん登録	
<b>小児がん・AYA世代のがん対策</b>						
<b>小児がん対策</b>						
アウトプット指標	230101		小児がん拠点病院等で小児がんの薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する医師の数	-	現況報告書 (小児がん)	
	230102		小児がん拠点病院等で小児の手術に携わる、小児がん手術に関して専門的な知識及び技能を有する医師の人数	-	現況報告書 (小児がん)	
	230103		小児がん拠点病院等で小児がんの放射線療法に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数	-	現況報告書 (小児がん)	
	230104		小児がん拠点病院等における小児がん看護に関する専門的な知識や技能を習得している看護師の人数	-	現況報告書 (小児がん)	
	230105		小児がん拠点病院等における医療環境にある子どもや家族への療養支援に関する専門的な知識及び技能を有する者の人数	-	現況報告書 (小児がん)	
	230106		都道府県協議会でフォローアップの連携体制について議論している都道府県数	-	現況報告書	
	230107		(参考) 長期フォローアップ外来を設置している小児がん拠点病院等の施設数	-	現況報告書 (小児がん)	
	中間アウトカム指標	230201		小児がん拠点病院で治療を受けた小児がん患者の割合*11	-	全国がん登録/院内がん登録
230202			がん患者の家族の悩みや負担を相談できる支援・サービス・場所が十分あると思う小児がん患者の割合	-	小児患者体験調査	
230203			長期フォローアップについて知っているという回答した小児がん患者の割合	-	小児患者体験調査	
230204			小児がん拠点病院において実施されている小児がんに関する治験数	-	現況報告書+jRCT	
<b>AYA世代のがん対策</b>						
アウトプット指標	230108		多職種からなるAYA支援チームを設置している拠点病院等の割合	-	現況報告書	
中間アウトカム指標	230205		がんと診断されたから病気や療養生活について相談できたと感じる若年がん患者の割合	3002	患者体験調査	
	230206		外見の変化に関する悩みを医療スタッフに相談できた若年患者の割合	2076	患者体験調査	
	230207		治療開始前に、生殖機能への影響に関する説明を受けたがん患者・家族の割合	2093	患者体験調査、小児患者体験調査	
<b>高齢者のがん対策</b>						
アウトプット指標	240101		当該がん医療圏において、地域の医療機関や在宅療養支援診療所等の医療・介護従事者とがんに関する医療提供体制や社会的支援、緩和ケアについて情報を共有し、役割分担や支援等について検討を行っている拠点病院等の割合	-	現況報告書	
	240102		意思決定能力を含む機能評価を行い、各種ガイドラインに沿って、個別の状況を踏まえた対応をしている拠点病院等の割合	-	現況報告書	
中間アウトカム指標	240201		医師・看護師・介護職員など医療者同士の連携は良かったと回答した人の割合	-	遺族調査	
	240202		患者と医師間で最期の療養場所に関する話し合いがあったと回答した人の割合	-	遺族調査	
<b>新規医薬品、医療機器及び医療技術の速やかな医療実装</b>						
アウトプット指標	250101		臨床試験に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口を設置している拠点病院等の割合	-	現況報告書	
中間アウトカム指標	250201		がんに関する臨床研究数	-	検討中 (jRCT)	
<b>3. がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築</b>						
分野別アウトカム指標	300001		相談支援センターを利用したことのある人が役に立ったがん患者の割合	-	患者体験調査	
	300002		ピアサポートを利用したことがある人が役に立ったがん患者の割合	-	患者体験調査	
	300003		家族の悩みや負担を相談できる支援が十分であると感じているがん患者・家族の割合	3022	患者体験調査	
	300004	再掲	治療決定までに医療スタッフから治療に関する十分な情報を得られた患者の割合	-	患者体験調査、小児患者体験調査	
	300005		がんの新しい治療法に関する情報の中には、十分な科学的根拠がなく、注意を要するものがあると思う人の割合	-	世論調査 (仮)	
	300006		望んだ場所で過ごせたがん患者の割合	3034	遺族調査	
	300007		在宅で亡くなったがん患者の医療に対する満足度	3033	遺族調査のサブグループ解析 (全死亡のうち在宅死亡)	
	300008		治療費用の負担が原因で、がんの治療を変え・断念したがん患者の割合	-	患者体験調査	
	300009		金銭的負担が原因で生活に影響があったがん患者の割合	-	患者体験調査	
	300010		がんと診断されたから病気や療養生活について相談できたと感じるがん患者の割合	3002	患者体験調査	
	300011		身体的・精神的な苦痛により日常生活に支障を来しているがん患者の割合	3014	患者体験調査	
	300012		がん患者の自殺数	3050	革新的がん自殺研究推進プログラム	
	300013		がんであることを話せる割合	-	世論調査 (仮)	
	300014		がん治療前に就学していた者のうち、「がん治療のために患者が転校・休学・退学したと回答した人」以外の割合	-	小児患者体験調査	
	300015		人生をまっとうしたと感じていた患者の割合	-	遺族調査のサブグループ解析 (仮) *9	

分野	#	再掲	指標	3期	データソース	
<b>相談支援及び情報提供</b>						
<b>相談支援について</b>						
アウトプット指標	311101		がん相談支援センターでの自施設・他施設からの新規相談件数（全国の拠点病院等での総数）	-	現況報告書	
	311102		相談員研修を受講したがん相談支援センターの相談員の人数	-	現況報告書	
	311103		上記の内、フォローアップ研修を受講したがん相談支援センターの相談員の人数	-	現況報告書	
	311104		拠点病院等 1 施設あたりの連携している患者団体の数	-	現況報告書	
	311105		拠点病院等 1 施設あたりの体験を語り合う場の開催数	-	現況報告書	
	中間アウトカム指標	311201		がん相談支援センターについて知っているがん患者の割合	3023	患者体験調査、小児患者体験調査
		311202		治療法や病院についてがん相談支援センターで情報入手しようと思う人の割合	-	世論調査（仮）
311203		再掲	がんと診断されてから病気や療養生活について相談できたと感じるがん患者の割合	3021	患者体験調査	
311204			ピアサポーターについて知っているがん患者の割合	3024	患者体験調査	
<b>情報提供について</b>						
アウトプット指標	312101		がん情報サービスにアクセスした件数	-	国立がん研究センターからのデータ提供	
	312102		がん情報サービスにおけるコンテンツ更新数	-	国立がん研究センターからのデータ提供	
	312103		がん情報サービスにおける点字資料、音声資料数、資料の更新数	3026	国立がん研究センターからのデータ提供	
中間アウトカム指標	312201		治療法や病院についてがん情報サービスで情報入手しようと思う人の割合	-	世論調査（仮）	
	312202		がん情報サービスにアクセスし、探していた情報にたどり着くことができた人の割合	3025	がん情報サービスによる調査（国立がん研究センターからのデータ提供）	
	312203	再掲	がんと診断されてから病気や療養生活について相談できたと感じるがん患者の割合	3021	患者体験調査	
<b>社会連携に基づく緩和ケア等の患者支援</b>						
アウトプット指標	320101		専門医療機関連携薬局（傷病の区分：がん）の認定数	-	厚生労働省調べ	
	320102		地域緩和ケア連携調整員研修受講者数	-	地域緩和ケアネットワーク構築事業	
	320103		診療情報提供料（Ⅱ）の算定数	-	NDB	
中間アウトカム指標	320201		がん治療前に、セカンドオピニオンに関する話を受けたがん患者の割合	3032	患者体験調査	
	320202		患者と医師間で最期の療養場所に関する話し合いがあった	-	遺族調査	
<b>がん患者等の社会的な問題への対策（サバイバーシップ支援）</b>						
<b>就労支援について</b>						
アウトプット指標	331101		拠点病院等のがん相談支援センターにおける就労に関する相談件数	3045	現況報告書	
	331102		療養・就労両立支援指導料の算定数* *がんにについて	-	NDB	
	331103		拠点病院等における就労の専門家による相談会の回数	-	現況報告書	
	331104		ハローワークと連携した就職支援をおこなっている拠点病院等の数	3044	長期療養者就職支援事業報告	
	331105		長期療養者就職支援事業を活用した就職者数 *がんにについて	-	長期療養者就職支援事業報告	
	331106		両立支援コーディネーター研修修了者数	-	事業報告（労働者健康安全機構）	
中間アウトカム指標	331201		治療開始前に、就労継続について説明を受けたがん患者の割合	3041	患者体験調査	
	331202		がんと診断後も仕事を継続していたがん患者の割合	3042	患者体験調査	
	331203		退職したがん患者のうち、がん治療の開始前までに退職した者の割合	3043	患者体験調査	
	331204		治療と仕事を両立するための社内制度等を利用した患者の割合	3046	患者体験調査	
	331205		治療と仕事を両立するための勤務上の配慮がなされているがん患者の割合	3047	患者体験調査	
<b>アピアランスケアについて</b>						
アウトプット指標	332101		アピアランス支援研修修了者数	-	事業報告	
	332102		拠点病院等におけるアピアランスに関する相談件数	-	現況報告書	
中間アウトカム指標	332201		外見の変化に関する悩みを医療スタッフに相談できたがん患者の割合	3048	患者体験調査	
<b>がん診断後の自殺対策について</b>						
アウトプット指標	333101	再掲	緩和ケア研修修了者数	3017	がん等における新たな緩和ケア研修等事業	
	333102		自殺リスクに関する研修を実施した拠点病院等の数	-	現況報告書	
	333103		特定疾患治療管理料 がん患者指導管理料イ算定数	-	NDB	
	333104		特定疾患治療管理料 がん患者指導管理料ロ算定数	-	NDB	
中間アウトカム指標	333201	再掲	心のつらさがあるときに、すぐに医療スタッフに相談できたと感じている患者の割合	3011	患者体験調査	
	333202	再掲	精神的な苦痛を抱えるがん患者の割合	3013	患者体験調査	
	333203	再掲	療養生活の最終段階において、精神的な苦痛を抱えるがん患者の割合	3016	遺族調査	
	333204	再掲	身体的なつらさがある時に、すぐに医療スタッフに相談できると思う患者の割合	2075	患者体験調査	
	333205	再掲	身体的な苦痛を抱えるがん患者の割合	3012	患者体験調査	
	333206	再掲	療養生活の最終段階において、身体的な苦痛を抱えるがん患者の割合	3015	遺族調査	
<b>その他の社会的な問題について</b>						
アウトプット指標	334101		情報取得や意思疎通に配慮が必要な者に対するマニュアルを作成している拠点病院等の数	-	現況報告書	
	334102		拠点病院等で実施した、地域を対象とした、がんに関するセミナー等の開催回数（総数）	-	現況報告書	
中間アウトカム指標	334201		がんと診断されてから周囲に不必要な気を遣われている割合	-	患者体験調査	
	334202		（家族以外の）周囲の人からがんに対する偏見を感じる割合	-	患者体験調査	
<b>ライフステージに応じた療養環境への支援</b>						
<b>小児・AYA世代について</b>						
アウトプット指標	341101		小児がん拠点病院等のがん相談支援センターにおける、小児・AYA世代のがん患者の発育及び療養上の相談への対応・支援のうち、教育に関する相談件数	-	現況報告書（小児がん） *10	
	341102		国立がん研究センターによる「がん相談支援センター相談員基礎研修」(1)(2)を受講後、国立成育医療研究センターが実施する「小児がん相談員専門研修」を修了し、小児がん拠点病院等に配置されている者の数	-	現況報告書（小児がん）	
	341103		小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会参加人数	-	事業報告	
	341104		長期フォローアップ外来を開設している小児がん拠点病院等の数	-	現況報告書（小児がん）	
	341105		小児がん拠点病院等のがん相談支援センターにおける、小児・AYA世代のがん患者に対する就労に関する相談件数	-	現況報告書（小児がん） *10	
	341106		小児がん拠点病院が連携している、小児がんに関する患者団体の数	-	現況報告書（小児がん）	
中間アウトカム指標	341201		治療開始前に教育の支援等について医療スタッフから話があったと回答した人の割合	3052	小児患者体験調査	
	341202		がん治療のため転校・休学・退学したと回答した人のうち、患者の治療中に何らかの就学支援制度を利用したと回答した人の割合	-	小児患者体験調査	
	341203		治療中に学校や教育関係者から治療と教育の両立に関する支援を受けた家族の割合	3053	小児患者体験調査	
	341204		長期フォローアップについて知っている割合	-	小児患者体験調査	
	341205		治療開始前に、就労継続について説明を受けたがん患者の割合	-	患者体験調査 <若年がん患者のみ>	
	341206		つらい症状には速やかに対応してくれたと思うと回答した人の割合	-	小児患者体験調査	

分野	#	再掲	指標	3期	データソース
高齢者について	アウトプット指標		当該がん医療圏において、地域の医療機関や在宅療養支援診療所等の医療・介護従事者とがんに関する医療提供体制や社会的支援、緩和ケアについて情報を共有し、役割分担や支援等について検討を行っている拠点病院等の割合	-	現況報告書
		342102	介護支援等連携指導料の算定数（がん患者に限定）	-	NDB
		342103	退院時共同指導料 1 の算定数（がん患者に限定）	-	NDB
		342104	意思決定能力を含む機能評価を行い、各種ガイドラインに沿って、個別の状況を踏まえた対応をしている拠点病院等の割合	-	現況報告書
	中間アウトカム指標	342201	介護をしたことで、全体的に負担感が大きかったと回答した割合	-	遺族調査のサブグループ解析（仮）*9
		342202	医師・看護師・介護職員など医療者同士の連携はよくなったと回答した割合	-	遺族調査のサブグループ解析（仮）*9
		342203	患者と医師間で最期の療養場所に関する話し合いがあったと回答した割合	-	遺族調査のサブグループ解析（仮）*9
<b>4. これを支える基盤の整備</b>					
<b>全ゲノム解析等の新たな技術を含む更なるがん研究の推進</b>					
アウトプット指標	410101		「革新的がん医療実用化研究事業」事後評価	-	AMED
		410102	日本臨床研究実施計画・研究概要公開システム（jRCT）に登録されたゲノム変異にもとづくがんを対象とした臨床研究の数	-	jRCT、AMED
		410103	日本臨床研究実施計画・研究概要公開システム（jRCT）に登録されたAMED疾患領域（がん）の研究数	-	jRCT、AMED
		410104	厚生科研の採択課題における事後評価の平均	-	厚生労働省調べ
		410105	「がん政策研究事業」成果に関する評価	-	厚生労働省調べ
	中間アウトカム指標	410201	CSO(Common Scientific Outline)分類別・部位別論文数、引用数	4014	論文データベース Dimensions
		410202	(AMEDにおけるがんに関する) 研究成果を活用した臨床試験・治験への移行数	-	AMED
	410203	(AMEDにおけるがんに関する) 薬事承認件数（新規・適応拡大）（医療機器含む）	-	AMED	
	410204	(AMEDにおけるがんに関する) シーズの企業への導出件数	-	AMED	
<b>人材育成の強化</b>					
アウトプット指標	420101		がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）養成プラン「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン」事業評価	-	文部科学省からのデータ提供
		420102	がんゲノム医療コーディネーター研修会参加人数	4022	がんのゲノム医療従事者研修事業（～R4）、現況報告書（ゲノム）
		420103	再掲 がんリハビリテーション研修プログラムを修了している医療従事者の人数	2063	ライフプランニングセンターからのデータ提供
		420104	小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会参加人数	4023	小児・AYA世代の長期フォローアップ体制整備事業
		420105	再掲 緩和ケア研修修了者数	4021	がん等における新たな緩和ケア研修等事業
		420106	緩和ケアに特化した講座を設置している大学の数	4024	文部科学省からのデータ提供
	中間アウトカム指標	420201	第4期がんプロで支援されたがん専門医療人材の人数	-	事業における取組状況調査
	-	今後、検討	-	-	
<b>がん教育及びがんに関する知識の普及啓発</b>					
アウトプット指標	430101		外部講師を活用してがん教育を実施した学校の割合	4031	がん教育の実施状況調査
		430102	がん情報サービスに含まれる項目数	-	国立がん研究センターからのデータ提供
		430103	拠点病院等で実施した、地域を対象とした、がんに関するセミナー等の開催回数（総数）	-	現況報告書
		430104	がん対策推進企業アクションの参加企業数	4033	厚生労働省調べ
中間アウトカム指標	430201	「がんは誰もがかかると可能性のある病気である。」に対して「正しい」と回答した割合	-	がん教育総合支援事業事業成果報告書	
	430202	「がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。」に対して「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合	-	がん教育総合支援事業事業成果報告書	
	430203	再掲 がんの新しい治療法に関する情報の中には、十分な科学的根拠がなく、注意を要するものがあると思う人の割合	-	世論調査（仮）	
<b>がん登録の利活用の推進</b>					
アウトプット指標	440101	全国がん登録の精度指標としてのMI比・%DCO	2111	全国がん登録	
中間アウトカム指標	440201	利用件数（総数・年あたり）	-	厚生労働省調べ／国立がん研究センターからのデータ提供	
<b>患者・市民参画の推進</b>					
アウトプット指標	450101		都道府県がん対策推進計画の策定過程におけるがん患者を代表する者の参加割合（参考：性別、年代等の多様性）	4001	厚生労働省調べ
		450102	厚生労働省科学研究を基に開催された研修会の開催回数	-	厚生労働科学研究
	-	検討中	-	-	
中間アウトカム指標	450201	がん対策を進めるためには国民の協力が広く必要であると考える人の割合	-	世論調査（仮）	
	450202	関係学会において患者・市民参画を知っていると回答した医療者の割合	-	検討中（日本癌治療学会からのデータ提供）	
<b>デジタル化の推進</b>					
アウトプット指標	460101		患者とその家族が利用可能なインターネット環境を整備している拠点病院等の割合	-	現況報告書
		460102	セカンドオピニオンを提示する場合は、必要に応じてオンラインでの相談を受け付けることができる体制を確保している拠点病院等の割合	-	現況報告書
		460103	集学的治療等の内容や治療前後の生活における注意点等に関する、冊子や視覚教材等がオンラインでも確認できる拠点病院等の割合	-	現況報告書
中間アウトカム指標	-	検討中（デジタル技術の活用のアウトカムをどのように評価するか、検討を行う。）	-	検討中	

注釈

- \*1. 地域がん診療連携拠点病院、都道府県がん診療連携拠点病院、特定領域がん診療連携拠点病院、地域がん診療病院（各類型の特例型を含む）。
- \*2. がんゲノム医療中核拠点病院等における人数。
- \*3. がんゲノム医療中核拠点病院、がんゲノム医療拠点病院における人数。
- \*4. 大腸がん、肺がん、胃がん、乳がん、前立腺がん及び肝・胆・膵のがんを想定
- \*5. 地域がん診療連携拠点病院、都道府県がん診療連携拠点病院（各類型の特例型を含む）。
- \*6. 診療の質評価指標（Quality Indicator, QI）研究参加施設（2019年症例解析には591施設が参加、うち、国指定のがん診療連携拠点病院等指定施設は386施設（拠点病院の86%）。）
- \*7. 化学療法を遅延なく受けることができているかを評価。測定対象の定義や測定方法について、研究班で検討予定。
- \*8. 膵がんを代表例として想定。難治性がんの定義について、今後検討が必要。
- \*9. サブグループ解析は、遺族調査の結果を、75歳以上に限定して解析することを想定。
- \*10. 成人拠点におけるAYA世代のがん患者に係る相談件数も算出することを検討中（令和4年度では現況報告書に対応項目無し）。
- \*11. 小児がん拠点病院と、小児がん連携病院の類型1を分母とする想定。



第89回がん対策推進協議会

資料4

令和5年7月10日

# 患者・家族として審議会に臨むにあたり

関係者が『声』を1つにして小児がんの問題に挑む

井上 富美子

認定特定非営利活動法人ミルフィーユ小児がんフロンティアーズ 名誉理事長  
/小児がん対策国民会議 共同代表



# ミルフィーユ小児がんフロンティアーズについて

認定NPOミルフィーユ小児がんフロンティアーズ(理事長:中島弥生)は、1997年10月、千葉県下の主な小児がん治療施設の医療者の方々からの呼びかけで任意団体「菜の花会」として発足。その後、2011年、NPO「ミルフィーユ小児がんフロンティアーズ」となり、小児がん患児・家族を、そして治療終了後の小児がん経験者への支援活動を行っています。

決して一人ではない、元気になった仲間がたくさんいるというメッセージとともに、診断がついた時から、正しい知識や情報提供、仲間作りのお手伝いなど、治療終了後、自分の未来を自立的に考え、自分の進む道を開拓する姿勢を育む後押しをしています。

2020年より、遠隔操作ロボットを使い、長期入院をしている小児患児のお出かけの機会をつくり、社会からの孤立を防ぐ活動をしています。加え、現在、企業などと協業し、入院中の病弱児・生徒に対して遠隔操作ロボットを用いた「切れ目のない学習支援」を推進しています。



チヂミ作り(入院中)



アニマルセラピー(入院中)



寄付贈呈式(千葉ロッテマリーンズ)



キャンプ(治療終了後)



038 ロボットを使った恐竜ツアー(入院中)



ロボットを使った買い物ツアー(入院中)

NHK WORLD-JAPAN  
News Top Stories Backstories At a Glance





# 千葉県がん対策審議会 子ども・AYA世代部会に委員として参画

認定特定非営利活動ミルフィーユ小児がんフロンティアーズの理事長として、千葉県がん対策審議会子ども・AYA世代部会の専門委員を10期務める(2012年～2022年まで)

1

**年2回、開催時間も約2時間程度の開催**

2

**数日前に資料が送付されるため、準備不足での出席**

3

**資料に対しての行政から事前説明や質問する機会はなし**

4

**審議会で話される内容が専門的すぎ、会議についていけない**

# 患者・家族が政策決定プロセスに参加するにあたり

これまで県の審議会に参加、また、患者団体に身を置いてきて感じる事

## 1

### 都道府県協議会における課題

- 患者・家族の代表が積極的に意見を述べるに足る知識がないため、協議会での発言ができない（自分の経験だけを語るにすぎない。代表制が確保しているか疑問）
- 行政からの支援がない（審議会への参加前に当日の資料が数日前に送られてきたりと、事前に聞きたいことなど質問ができなかったりする）
- 開催頻度が少なく、開催時間も短い。会議が形式的で、県民の意見を踏まえ施策が実施されているか疑問

## 2

### 国のがん対策推進協議会の課題

- 治療や闘病環境は時と共に変わっている現状の中、その時代に即した意見を得るには、今、本当に苦しみ、困っている患者のリアルタイムの声を、可能な限り広く集めることが必要という意見を聞くことがある。
- より良い審議会を継続させるためには、新陳代謝を良くした構成の審議会が必要。
- 国として、どのような基準、判断で、審議会の委員を選んでいるのか不透明。





# 小児がんを取り巻く環境を解決するために

小児がんを取り巻く環境の改善のためには、関係者が『声』を1つにして小児がんの問題に挑む必要を感じ、これまでの組織の在り方などを考え、以下の点を気を配り、全国的組織の立ち上げのため患者・家族、医療者、企業に声をかける

## 1 関係者全体の利益を調整(代表性)

成人がんなどに比べ、罹患者数が少なく、組織的にも脆弱な団体が個に動くのではなく、小児がん全体の利益は何なのか、それぞれの思いを超えて、『声』をひとつにする

## 2 患者・家族、医療者などが対等な立場でかかわる(公平性)

患者・家族、医療従事者、企業などから構成される組織において、すべてのステークホルダーが対等な立場で意見を述べ、特定の職域を代表するステークホルダーの影響が大きくなるような民主的な意思決定に基づいた行動。

## 3 小児がんを社会問題として取り組む(公益性)

国民の税金が投入されることから、小児がんの問題について国民に理解を深めてもらい、社会の問題として課題の解決への取り組(国民会議の名前の由来<sup>4)</sup>)



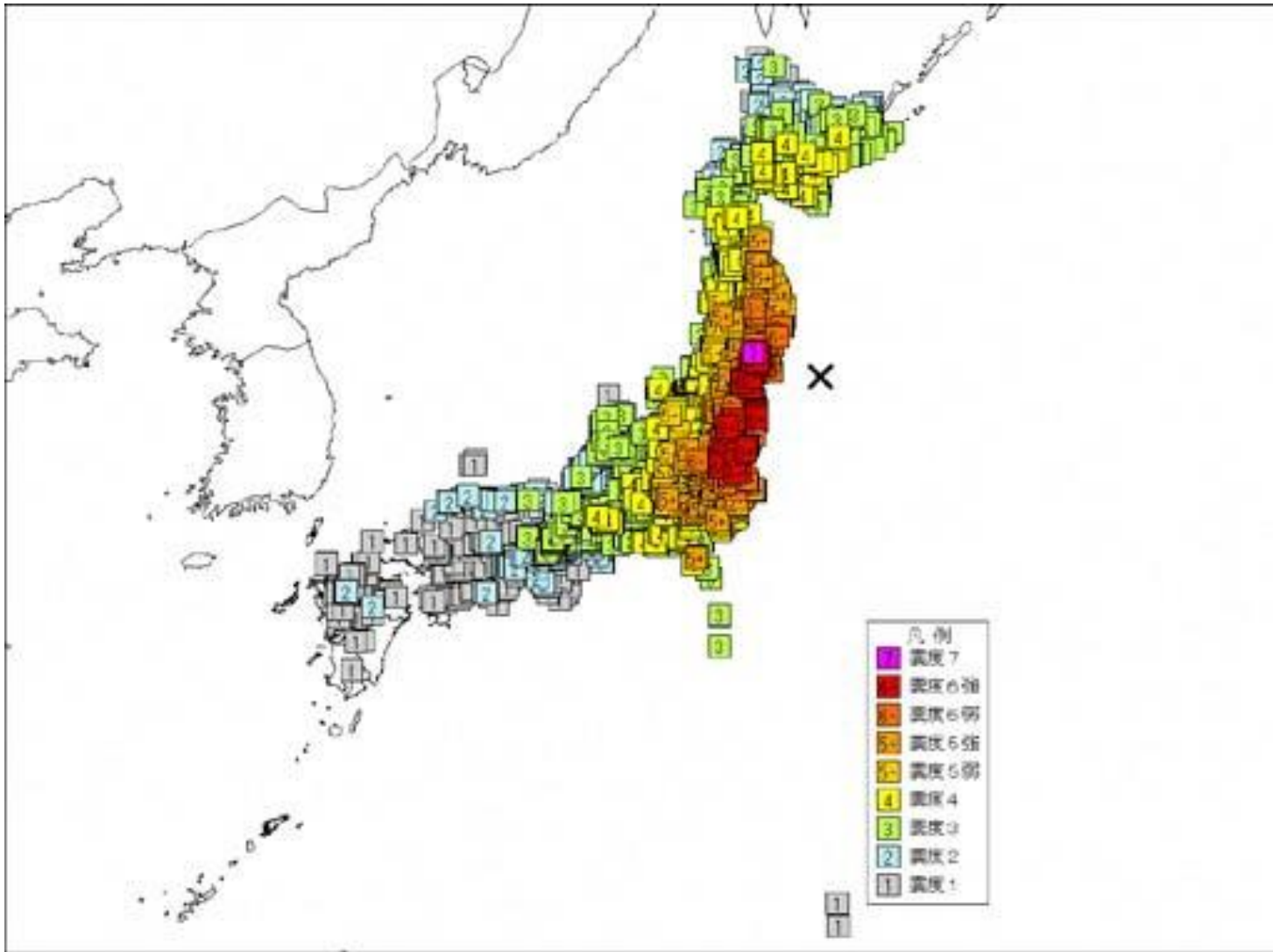
# 小児がん対策国民会議

小児がん対策国民会議(以下、国民会議)は、2021年7月1日、患者・家族、医療従事者、企業など社会全体が将来のある子どもたちに対する責任を共有し、『子どもががんにかかったときに、必要に適切な医薬品や医療が提供される手段がある社会』を目指し、患者・家族やNPO法人小児がん研究グループの理事などの有志によって設立

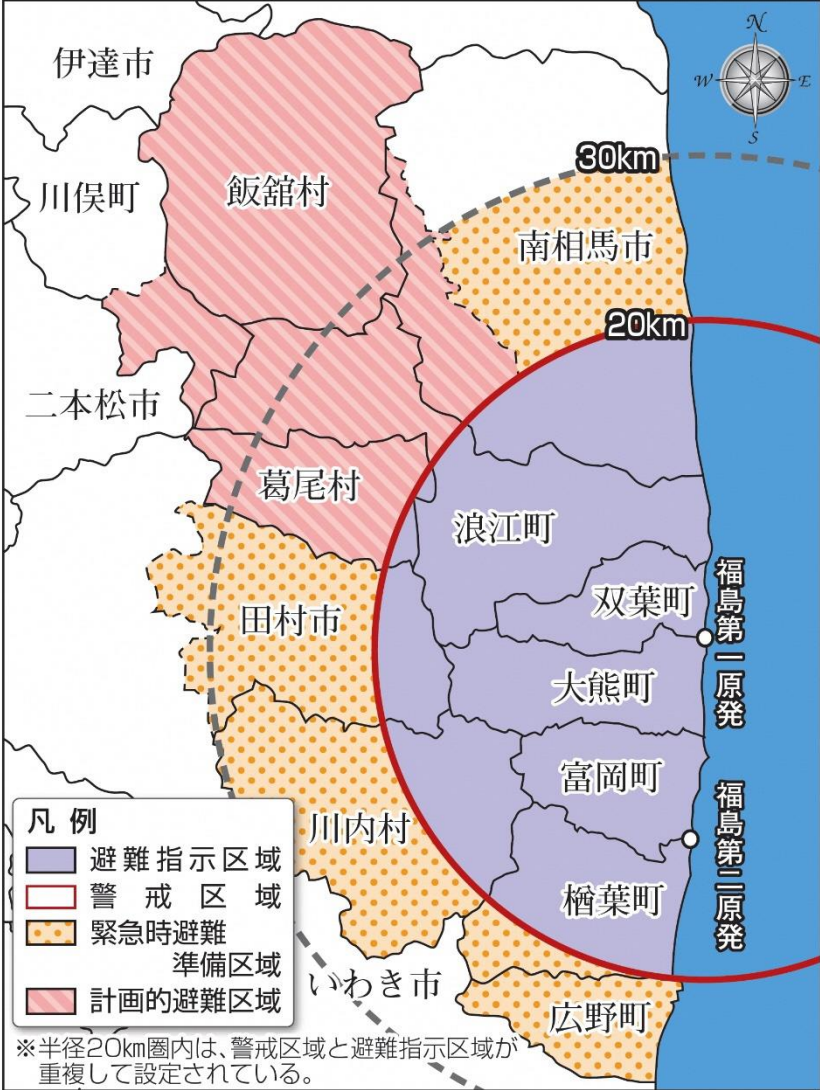
役職	氏名	所属
代表	井上 富美子	認定特定非営利活動法人ミルフィーユ小児がんフロンティアーズ 名誉理事長 / 特定非営利活動血液情報広場つばさ 理事
	足立 壮一	滋賀県立総合病院 総長 / 特定非営利活動法人日本小児がん研究グループ 理事長
副代表	米田 光宏	国立成育医療研究センター 副小児がんセンター長・腫瘍外科診療部長 / 国立がん研究センター中央病院 小児腫瘍外科 科長 / 日本小児血液・がん学会 副理事長
事務局長	林 三枝	認定特定非営利活動法人ハートリンクワーキングプロジェクト 副理事長
委員	小川 千登世 (薬剤開発促進WG座長)	国立がん研究センター中央病院小児腫瘍科 科長 / 特定非営利活動法人日本小児がん研究グループ 理事 / 日本小児血液・がん学会 理事
	馬上 祐子	小児がん患者会ネットワーク世話人/希少がんネットワーク 事務局長
	斉藤 淑子 (教育WG座長)	全国病弱教育研究会 会長
	石田 也寸志	愛媛県立医療技術大学 保健科学部臨床検査学 特命教授
	前田 美穂	日本医科大学付属病院 小児科 名誉教授
	早川 穰	大原薬品工業株式会社 取締役 研究開発本部長
監事	高田 涉	日本イーライリリー株式会社 研究開発・メディカルアフェアーズ 統括本部 薬事部門長
	越永 従道	特定非営利活動法人日本小児がん研究グループ 副理事長/日本大学医学部小児外科 教授
	山下 公輔	公益財団法人がんの子どもを守る会 理事長

# 福島県における ピアサポート事業構築事業 ～大震災後の委託事業としての活動～

特定非営利活動法人がんピアネットふくしま  
理事長 鈴木牧子



①2011年4月22日現在



福島民報社提供

# 2011. 3. 11から始まった苦悩と困惑

- ・地震による避難—3. 11夜から始まる
- ・放射能リークによる再避難
- ・浜通りの病院閉鎖



がんを考える「ひいらぎの会」を検索して相談電話が相次ぐ  
(3. 12より始まり、ひとり1時間以上話す方も・・・患者本人、家族)

待ったなしの対応を今、しなければ・・・！誰が？

# 大震災後のがん患者の混乱

病院が閉鎖して、治療が  
打ち切りになった！

検査で、がんだと確定された。  
小学生の子を抱えるシングルマザー。  
こんな被災の状況で、周りにも言えない。



避難先で、相談できる人も誰もいない。  
がんの事など、とても話せる状況ではない・・・

鳴り止まぬ電話と、怒り・・・苦しみ・・・悲しみ・・・

2011年福島県がん対策推進協議会で申し出  
がん相談支援センターに行きつけない患者・家族  
はもちろんのこと、避難先で自分の居場所さえ把  
握していない人たちをこのままにしておけない。  
鈴木牧子が「がんピアサポートサロン」を全県に開  
催していくために予算をつけてください!

2012年より準備開始—事務所の確保・事務員の雇  
用ですぐにスタート

# 福島県内のがん患者会・関連団体によびかけ

がんを考える「ひいらぎの会」鈴木牧子代表世話人



公益社団法人 日本オストメイト協会  
公益財団法人 がんの子どもを守る会福島支部  
患者会 ピンクのリボン  
認定特定非営利活動法人 パンダハウスを育てる会  
特定非営利活動法人 福島県緩和ケア支援ネットワーク  
福島県咽頭摘出者福祉団体「福声会」  
雪うさぎ10西の会（造血幹細胞移植患者会）  
生と死を考える福島の会  
国立がん研究センターがん情報センター患者・市民パネル  
がんを考える「ひいらぎの会」



# 2015年設立総会 同年NPO法人化

- ピアサポーター養成講座(いわき市で開催)第4回
- がん政策サミット参加
- リレーフォーライフ福島協力
- 福島県健康フェスタ参加
- がんナビゲーター講座紹介・参加
- 公開医療勉強会
- 設立総会(11月)
- 市民と共に「うたごえ喫茶」
- がん診療拠点病院へのあいさつ
- サロン開催可能地訪問

# がんピアサポートサロン

令和5年度  
県内12箇所開催

県中地区

- ・南東北病院「ほっと」
- ・郡山駅前がんピアサロン

会津地区

- ・会津医療センター「あいづ」
- ・会津市街（そよ風）
- ・奥会津・柳津（つきみが丘）

福島県を網羅  
県内12常設会場

働くサバイバーの  
「夕方サロン」

事務所健康麻雀



県北地区

- ・福島医大「ひかり」
- ・福島市街「まちなかがんこころカフェ」

相双地区

- ・南相馬市立病院

いわき地区

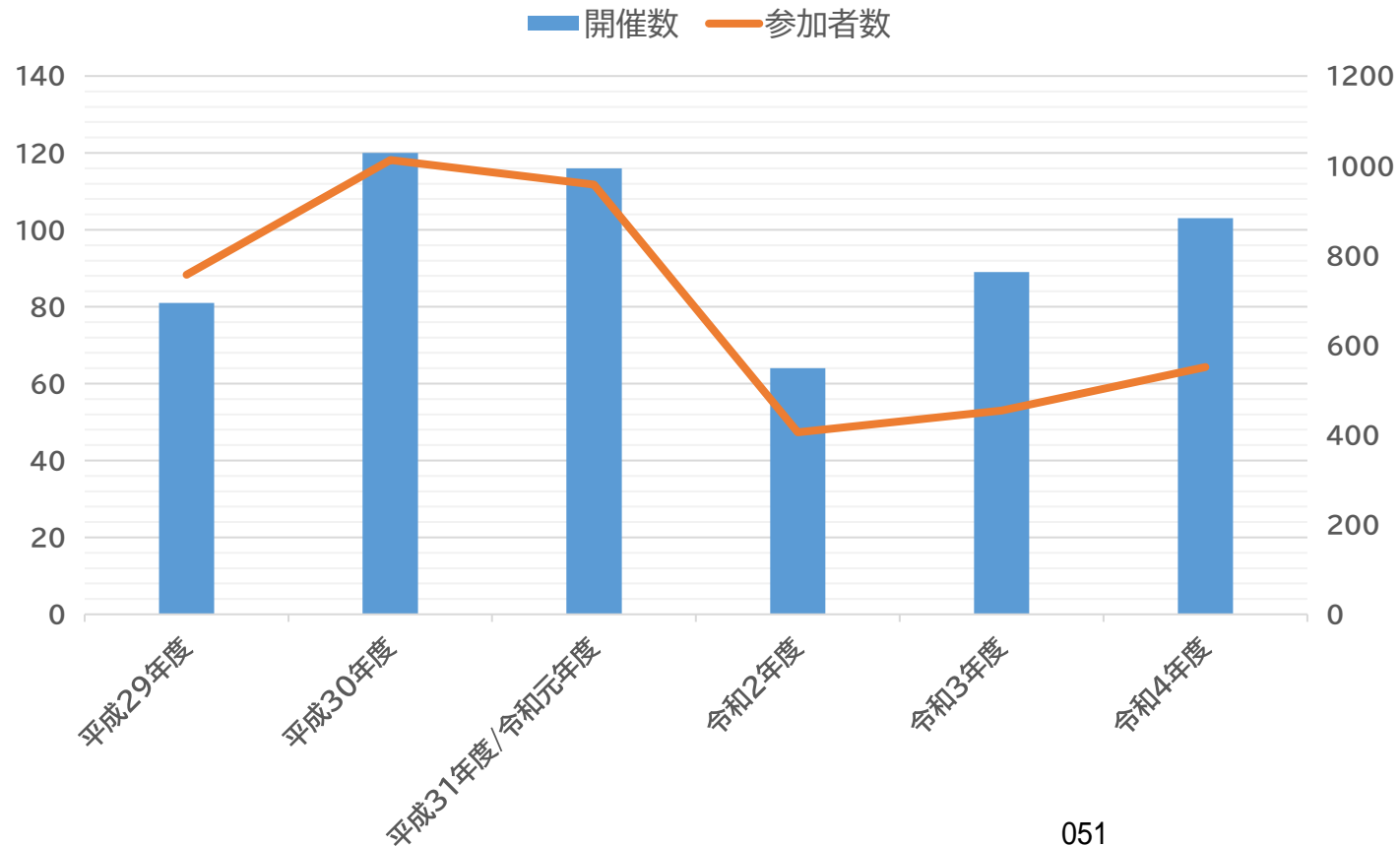
- ・いわき  
福島労災病院「ふわり」

県南地区

- ・白河厚生総合病院「結い」
- ・白河まちなかサロン

# 過去6年間のサロン参加者数

過去6年のヒアリングサロンの開催数と参加者数の推移



	開催数	参加者数
平成29年度	81	757
平成30年度	120	1,013
平成31年度 /令和元年度	116	958
令和2年度	64	406
令和3年度	89	454
令和4年度	103	551

# 福島県がん対策推進審議会(旧協議会)

## 福島県がん対策推進審議会 委員名簿

【委員】

※R 4 審議会開催時

氏名	所属	職名
おおたけ とおる 大竹 徹	公立大学法人福島県立医科大学附属病院 福島県がん診療連携協議会	副病院長 委員長
きの ひでき 佐野 秀樹	公立大学法人福島県立医科大学附属病院小児腫瘍内科	部長
やまさき しげる 山崎 繁	福島県がん診療連携協議会 一般財団法人太田総合病院附属太田西ノ内病院	副委員長 副院長
つばい えいやす 坪井 永保	一般社団法人福島県医師会 一般財団法人慈山会医学研究所附属坪井病院	常任理事 理事長
みづら あさこ 三浦 浅子	公益社団法人福島県看護協会	
しまぬき えいじ 島貫 英二	一般社団法人福島県薬剤師会	副会長
さとう としえ 佐藤 利恵	一般社団法人福島県訪問看護連絡協議会	理事
ねもと のぞみ 根本 望	福島県医療ソーシャルワーカー協会	理事
たなか よしあき 田中 嘉章	一般社団法人福島県介護支援専門員協会	理事
すずき まきこ 鈴木 牧子	特定非営利活動法人がんピアネットふくしま	理事長
おおうち なおみ 大内 直美	患者会ピンクのリボン	理事
やすむら せいじ 安村 誠司	公立大学法人福島県立医科大学公衆衛生学講座	教授
なかむら しゅうじ 中村 修二	公益財団法人福島県保健衛生協会	副会長
いがらし みのる 五十嵐 稔	公益社団法人福島県歯科医師会	専務理事
やまうち たかし 山内 崇史	福島県弁護士会	

担当 福島県保健福祉部(地域医療課・健康づくり推進課)

医師(がん診療連携協議会・小児がん専門医・県医師会・公衆衛生)

看護師(協会)

訪問看護

薬剤師

ソーシャルワーカー

介護支援専門員協会

患者団体協議会

患者会代表

保健衛生協会(対がん協会福島支部)

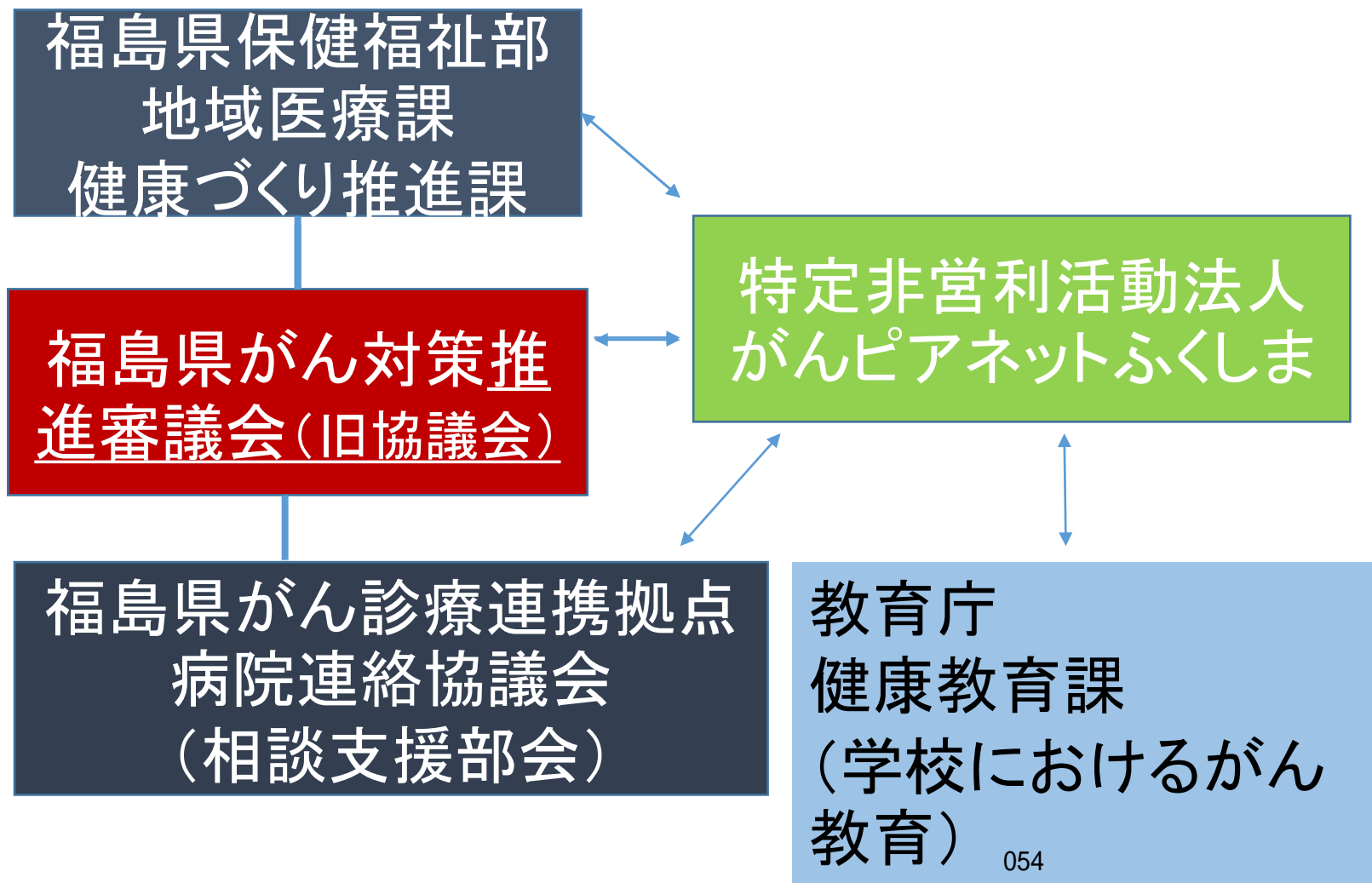
歯科医師会

弁護士

# 第3期がん対策推進計画パブリックコメント より多くの事が進捗している

- 多くの県民の声に対して回答
- がん教育の本格的始動(教育庁主体で協同)
- がん登録について専門の委員会設立
- 県内における地域格差(在宅医療)を共有
- がん診療連携拠点病院3か所喪失によるその後の県としての対応
- AYA世代在宅緩和への支援開始(都市部)
- アピアランスケア(ウィッグ・補助乳房)への助成金
- 多職種との顔の見える関係構築・連携

# ネットワーク・パートナーシップ



- ・2013年からの県からの委託事業「ピアサポーター構築事業」を拡大(県内がん患者会・関連団体と協議)
- ・がんピアサロン サポーター育成  
現場での実践
- ・拠点病院「緩和ケア研修会」におけるオブザーバー配置3名
- ・「緩和ケア研修会」患者講師
- ・福島医大臨床腫瘍学講座非常勤講師
- ・アドボケート講師としての派遣
- ・学術集会参加と還元
- ・他県からの要請と協力

# 患者市民参画推進にあたって都道府県協議会における課題

- ▶ 公平に意見を言える立場の患者委員が必要(対することではなく一緒にできること)
- ▶ 担当部署では人事で係が変わるので公平性をもった機関を設置することが望ましい
- ▶ これまで積み上げてきた議論を理解すること、そこに至った経緯を知ることが必要
- ▶ 新しい課題に対して建設的に取り組むための議論をきちんとマネジメントする
- ▶ 協議会では様々な立場からの意見を共有して精査できる知識を生んでいくことが大事
- ▶ 持続可能な活動に関してはきちんと予算化していく
- ▶ **がん患者・家族そして国民のため** という認識を忘れない事